

狗馬聲色ヲ喜バズ、又外國トノ交渉ナク、遠征功名ノ心ヲ抑ヘタリ、故ニ宮中ノ費用殊ニ少ク、無要ノ軍費少シモ消セズ、然レドモ善ク心ヲ國防兵備ニ用ヒ、其訓練スル所ノ精兵八萬ニ上リ、武器彈藥盡ク整頓シ、規律法令一モ間然スル所ナカリキ、一千八百五十四年ニ死ス。

亞馬斯ハ政府ガ專賣權ヲ掌握シテ穀物ノ輸出ヲ人民ニ許ササルハ正理ニ非ザルヲ悟リ、先王ノ禁制ヲ解キ、自由ニ賣買スルコトヲ得シメタリ。又從來一種ノ農民ハ恰モ露國土地附帶ノ半奴隸ノ如クナリシニ、其苦境ヲ改メテ自由ノ民タラシメタリ。其他中央集

財政ノ餘裕

權ヲ弛メ、政費ヲ減シ、以テ大ニ人民ヲ休養シ、財政最モ其宜シキヲ得テ、亞馬斯ノ死スルトキニハ、國庫ニ數百萬金ノ餘裕アルニ至レリ。唯亞馬斯ハ常ニ宮中ニ在リテ、出遊スルコト稀ニ、外人ト交際スルガ如キハ殆ド之レ無ク、之ヲ待遇スルコト甚ダ嚴格冷淡ナルヲ以テ、彼ノ惡評ヲ采シタルモノ、如シ。

老人ノ眞話

一老人曰ク、余曾テ亞馬斯ヲ拜シタルコトナシ、世ノ傳フル如ク、王ハ平生深宮ニ在リテ外出スルコト甚ダ稀ナルヤ疑フ可カラズ。明平滅土、阿梨及威武刺飛夢ハ能ク國中ヲ巡視シ、民ノ疾苦ヲ訪問セシモ王ハ曾テ此事ナシ、然レドモ其治世六年間ハ農民最モ幸

福ノ時ナリキ、何トナレバ運河概子開鑿シ了リ、但浚
 溝修復ニ止マリ、外國ノ戰爭方ニ絶エテ、徵兵ハ國內
 ノ守衛ニ過ギズ、租税モ亦重カラザレバ、催科ノ吏門
 ヲ叩クノ憂ヘナシ、農民ノ幸福實ニ前代ニ勝レリ、故
 ニ王ハ今日世間ニ傳唱スルガ如キ、無慈悲ノ君ニ非
 ズ、今ニシテ之ヲ追懷スルニ、詢ニ慕望ニ堪ヘザルナ
 リト。

夫レ明平滅土、阿梨ハ創業ノ英雄ニシテ、撥亂反正ノ
 明主ナリ、外敵國ヲ征服シ、内綱紀ヲ擴張スルニ於テ、
 非常ノ策略ヲ運ラシ、非常ノ手段ヲ用ヰザル可カラ
 ズ、其租税ヲ重ウシ、其庸調ヲ繁ニスルコト固ヨリ勢

亞馬斯ノ評

ノ免レザル所ナリ。蓋シ大業ヲ開クモノハ名主三世
 相續カザル可カラズ、一世業ヲ創メ、二世業ヲ整ヒ、三
 世業ヲ守リ、而シテ後百歲動クコトナシ。埃及ハ明平
 滅土、阿梨既ニ業ヲ創メタリ、之ヲ承ケテ之ヲ整ヒ、更
 ニ之ヲ守ル者無カル可カラズ、威武刺飛夢ハ素ヨリ
 不世出ノ英主ナリ、其才大業ヲ紹イデ整理スルニ餘
 リアリ、亞馬斯ハ嚴正寡欲既ニ成ルノ後ヲ承ケテ之
 ヲ守リ之ヲ失ハザルニ適セリ、然レドモ創業ノ後ヲ
 紹ギ、紛糾ヲ整理スルハ其長處ニアラズ、故ニ埃及ノ
 爲メニ計ルニハ、明平滅土、阿梨一世ノ業ヲナシ、威
 武刺飛夢二世ノ業ヲナシ、亞馬斯三世ノ業ヲナサバ、

真ニ完全ト稱スベキモ、昊天憫マズ、威武刺飛夢ノ命
 ヲ奪ヒ、亞馬斯ヲシテ二世ノ事業ニ當ラシム、是レ一
 大憾事ト謂フ可シ。然レドモ其才ナクシテ、枉ゲテ其
 事ヲ爲サザルニ如カズ。然ラズンバ則チ籤ヲ打テ蛇
 ヲ出シ、刺ヲ招イテ害ヲ来ス、國家ノ不幸焉ヨリ大ナ
 ルハナシ。亞馬斯禪ヲ受ケ、自ラ先王ノ雄圖遠略ナキ
 ヲ知り、其分ニ安ンシ、外敵國ノ交渉ヲ絶チ、内人民ノ
 負擔ヲ輕ウシ、一二休息ノ主義ニ出デタルハ、二世ノ
 事業トシテ稱スベキニ非ザレドモ、亞馬斯ノ爲メニ、
 決シテ非難スベキニ非ザルナリ。唯甚ク急激ニ政費
 ヲ減シ、悉ク保守休養ヲ主トセシヲ以テ、漸ク發達セ
 ントスル先王ノ事業ヲシテ中絶ニ歸セシメタルモノ
 頗ル多キハ、憾ム可キノミ。

第八

濟度サイド

濟度

濟度ハ明平滅土、阿梨ノ第四子ナリ。一千八百二十二年ニ生レ、一千八百五十四年亞馬斯ノ後ヲ紹イデ位ニ即ク。資性全ク亞馬スト相反シ、頗ル温良ニシテ世才ニ長シ、交際ヲ樂ミ、殊ニ好テ外人ヲ愛遇シタリ。唯輕佻浮躁ニ失シ、忽チ喜ビ忽チ怒リ、又更ニ謀慮ナク、少シモ心ヲ學事ニ注ガズ、政治ノ如キハ專裁獨斷ニ出テ、敢テ朝臣ノ議ヲ用ヒズ、又無用ノ兵員ヲ増募シ、徒ニ觀兵式ヲ喜ビ、或ハ朝ニ五萬ノ兵ヲ養ヒ、夕ニ之ヲ半減スルガ如キ、其國家ヲ視ルコト兒童ノ玩物ニ

歐人ノ好評

於ケルニ異ナラズ。

蓋シ歐人ノ濟度ヲ評スルモノ皆文明ノ輸入者ヲ以テ之ヲ稱ス、然レドモ其一代ノ事蹟ヲ見ルニ、輕佻浮躁、金錢ヲ見ルコト土芥ノ如ク、法令ヲ變ズルコト手ヲ反スガ如ク、殆ト言フニ堪ヘザルモノ多シ。曾テ大學ノ一教師アリ、學生ニ歐風ノ弊害ヲ防ギ、國民ノ元氣ヲ養生ス可キコトヲ講ズ、濟度之ヲ聞キ、馬ヲ馳セテ自ラ講堂ニ入り、其教師ヲ倒シ、拳ヲ舉ゲテ之ヲ亂打セシコトアリ。又亞武殿宮中一ノ待賓館ノ裝飾ノ爲ニ、二十五萬弗ノ巨額ヲ費シ、外國人ト會食シテ其快談ニ迷ハサレ、即時ニ巴理ニ命ジテ鏡臺及ヒ裝飾品ヲ造ラシメ、元價ノ十倍ヲ以テ賣リ渡サレタルコトアルガ如キ、又洲越運河ノ開鑿ノ始メ、佛人ノ書ヲ上リテ之ヲ請フニ當リ、其疏奏ヲ一閱スルニ及バズ、其利害ヲ講究スルヲ待タズ、直ニ之ヲ許可シ、爲メニ非常ナル不利益ノ條約ヲ結ビタルガ如キ、輕舉ノ一班ヲ見ルニ足ル。

輕佻國ヲ誤ル

區利美亞ノ役

區利美亞ノ役、濟度ハ許多ノ兵勇ト巨額ノ軍資トヲ送リテ土耳其ヲ應接シタリ。然ルニ其兵士軍裝粲然殆ト人目ヲ眩スルモ、悉ク皆么弱怯懦、攻城野戰ノ實用ニ適セズ、遂ニ諸外邦ノ爲ニ輕蔑セラレ、僅ニ輜重兵及ヒ看護隊ニ充テラレタリ。然レドモ濟度ハ之ヲ

兵ヲ見ル兒戯ノ如シ

知ラズ、唯自ラ以爲ラク、吾兵ハ皆是レ尅々タル武夫ナリ、天下無双ノ兵勇ナリ、能ク吾ガ幕下ニ心服シテ、吾ガ用ヲ爲スヲ樂ムモノナリト。曾テ軍容ヲ湖上ニ閱シ、兵士ノ服装甚ダ绚烂タルヲ觀テ、得々之ヲ喜ビ、更ニ進ンデ一樹陰ニ至ル、士卒沙上ニ團聚シテ偶語スルモノアリ、語意甚タ明カナラズ、唯不平ノ色アリテ歸心矢ノ如シノ語アルヲ聞ク、濟度大ニ之ヲ異ミ、左右ニ其意ヲ問フ、曰ク兵士家ニ歸ラント欲スルニ在リト、濟度之ヲ信ゼズ、親ラ其如何ヲ試ミント欲シ、令ヲ發シテ曰ク、故郷ニ歸ラント願フモノハ則チ自由ニ歸ルヲ許スト、兵士大ニ喜ビ、直ニ起テ皆四方ニ

散亂ス、濟度大ニ驚キ、狼狽シテ之ヲ留メ、事僅ニ定マリタリ。濟度が後日周末烽火ノ轍ヲ踏マザルヲ得タルモノハ幸ヒナリト謂フベシ。

和禮須ワイレヌノ埃及史ニ曰ク、抑濟度ガ一生ノ願欲ハ、歐洲文明ノ驕奢中ニ優游シテ、自由ノ幸福ヲ享受シタル高風ノ君主ト稱譽セラル、ニ在リ、故ニ歐洲ノ冒險者及ビ無頼辨佞ノ徒ハ之ヲ知り、常ニ其左右ニ伺候シ、種々ノ事ヲ語り、種々ノ業ヲ勸メ、終ニ一種ノ事務局ヲ歷山港ニ設ケタリ、是レ殖産工業ノ俠義隊トモ名クベキモノニシテ、自ラ唱ヘテ曰ク、埃及ノ爲ニ諸工業殖産ヲ企圖忠告スルノ義氣信切ヨリ出デタル

歐人王ヲ欺ク

モノナリト、然レドモ埃及政府ノ衰頹ヲ胚胎シ、國民ノ膏血ヲ搾リ、以テ財政瓦解ノ悲境ニ沈淪セシメタルモノハ是ナリ。蓋シ濟度ハ時ニ外人ノ貪婪饜クナキヲ知ラサルニ非ズ、又之ヲ憤ラサルニアラズ、但情實ニ拘束セラレ、優柔不斷ニ陥リ、又遊戲快樂ヲ俱ニスルノ好伴侶タルヲ以テ、一タビ怒レドモ又忍テ之ヲ免シ、相近ツケ相親ミ、禍根抜ク可カラサルニ至ラシメタルナリト。

洲越運河ノ發端

濟度が大名ノ永ク消滅セザルモノハ、洲越運河ノ大事業ナリ、威斯明流其後ヲ承ケ、一千八百六十九年ニ至テ成功セリ。洲越運河ノ開鑿ハ實ニ世界ノ大事業

運河ノ爲メニ國ヲ誤ル

ニシテ、航海商業ヲ益シタルヤ大ナリ、之ニ關スル議論ハ近世史上甚ダ喧シキ所ナリ、然レドモ有識ノ人ハ概子此ヲ以テ埃及ノ衰敗ヲ速キタリト評セリ。英ノ大宰相波明流バアメルストン侯ハ運河ノ開鑿ニ抗シテ曰ク、若シ地中海ト紅海トノ間ニ水路ヲ通ズルアラバ、我が英國ハ早晚埃及ヲ占領セザル可カラズト。又佛ノボナパチイ奔庭寧ハ曰ク、歐洲開明ノ進歩ニ從ヒ、埃及ハ必ズ其獨立ヲ維持スル能ハザラン、故ニ我國ハ之ニ先ダチテ、早ク保護國ト爲ス可シト。又英ノ准須ロイヌガ近世埃及政治、經濟、外交史ニ論ジテ曰ク、此國遠カラズ英ニ屬セザレバ必ズ佛ニ臣タラン、我が英人ニシテ印度ヲ

英ニ屬セザレバ佛ニ臣タラン

治ムルノ權利アラバ、何ゾ埃及ヲ支配スルノ權利ナ
 カラン、蓋シ埃及ハ英國ト印度トノ關門ナリト。是レ
 皆洲越運河ノ開鑿ヨリ感起シタル歐人ノ議論ニシテ、
 其後日ニ及ボシタル餘響ヲトスルニ足ルベシ。

然レドモ濟度ノ世ニ在ル間ハ、先王ノ蓄積シタル金
 銀アリ、又種々ノ理由アリテ、財政未ダ甚ダシキ紛亂
 ニ至ラズ、闔國未ダ甚ダシキ衰弊ニ陷ラズ、稍繁盛ノ
 外觀ヲ傷ケザリシガ、其他日ノ慘狀ヲ胚胎シタルハ、
 濟度ニアラズンバアラザルナリ。一千八百六十三年
 一月死ス。

一老人ノ眞話

一老人曰ク、老奴屢濟度王ニ謁セリ、故ニ粗ボ其風

采ヲ知ルヲ得タリ、蓋シ王ハ喜怒常ナク忽チニシテ
 樂ミ、忽チニシテ憤リ、忽チニシテ笑ヒ、忽チニシテ
 憂フ、實ニ人ヲシテ其意ノアル所ヲ知ル能ハザラシ
 ム、王ハ常ニ好ンデ數千ノ兵ヲ引率シ、旗ヲ翻シ鼓ヲ
 鳴ラシ、國內ヲ巡回セリ、是レ果シテ何ノ意ナリヤ、
 農民等皆其由ヲ知ル能ハザリキ。曾テ例ノ如ク兵ヲ
 率ヰテ我が村ニ至レリ、會々兵士ヲ待遇スルコトノ意
 ニ満タザルアリトテ、村長ヲ召喚シタリ、余ハ當時村
 長ノ職ニ在リシヲ以テ、謹テ幕下ニ至ル、王ハ怒氣火
 ノ如ク、口ヲ極メテ余等ガ不敬ノコトヲ罵リ、熱拳ヲ
 揮ッテ予ガ頭上ヲ毆打セントスルノ勢アリ、時ニ一

傳令使蹶イテ顛倒ス、其風甚ダ奇ナリ、王忽チ啞然大笑、腹ヲ捧イテ絶倒セントス、而シテ彼ノ怒氣既ニ去リテ殆ト忘失シタルガ如シト。

其老人又曰ク、老奴三子アリ、今ヤ悲ク亡セリ、第一子ハ遠戍ニ送ラレ、沮洳ノ地ニ久屯シテ遂ニ地疫ニ死シ、第二子ハ洲越運河ノ庸役ニ課セラレ死生遂ニ詳ラカナラズト、聲音漸ク衰へ、第三子ト謂ハント欲シテ遂ニ涙ヲ垂レテ曰ク、第三子モ亦人ト與ニ運河ノ庸ニ丁リ、一タヒ去リテヨリ又音書ナシ、數月ノ後ニ至リ、同行ノ者歸リ来リテ曰ク、彼レ衆ト共ニ工事ニ從ヒ、終日身ヲ數尺ノ水中ニ浸シ、夜ニ入レバ則チ

原野ニ横卧シテ日月ヲ送レリ、而ルニ一夜瘴厲ノ惡風沙漠ヨリ吹キ来リ、彼ハ數百人ト與ニ一朝ニシテ亡セリト。嗚呼子ヲ失ヒ第ヲ失フモノ何ゾ獨リ予ノミナランヤ。之ヲ嘆カザラント欲ハルモ亦得可カラザルナリト。

第九

威斯明流。

威斯明流ハ威武刺飛夢ノ第二子ナリ、一千八百三十年十二月三十一日ヲ以テ海樓府ニ生レ、一千八百六十三年濟度ノ後ヲ繼ギテ位ニ即ク。天性最モ伶俐ナリ、專ラ佛國風ノ教育ヲ受ケ、夙ニ英佛ニ遊ビ、歐洲ノ華美ニ眩惑シ、文明ニ心醉シ、一飛シテ直ニ其域中ニ入ラントスルノ妄念ヲ感起シ、爲ニ天性ノ伶俐モ佛國ニ教育セラレタル學識モ、悉ク皮相文明ノ一事ニ傾瀉シ、其極ヤ空想ヲ増シ、非ヲ飾ルノ用トナシ、詐偽狡獪ノ利用ニ供スルニ過ギザルニ至レリ。是ヲ以

威斯明流ノ天性

一世ノ事業

テ威斯明流ガ一世ノ事業ハ、歐洲事物ノ輸入ニ対テラズシテ、其苦心ト其費用トハ皆水泡ニ歸シ、更ニ利スル所ナク、我が才學ハ國ヲ誤リ位ヲ失フノ原因トナリタルハ、實ニ惜ムベキ所ナリ。夫ノ亞馬斯ガ固守政策ノ之ニ比スレバ、實ニ優ルモノアルガ如シ。蓋シ兩ナガラ極端ニ奔リタルモノニシテ、其間積消ノ大差アリト雖モ、而レドモ亞馬斯ハ唯聊カ國運ノ進捗ヲ緩メタルニ過ギズ、而シテ威斯明流ハ位ヲ失ヒ民ヲ苦メ、一國ヲ誤リ、又回復ス可カラザルニ至ラシメタリ。

然レドモ若シ威斯明流ヲシテ祖先ノ遺言ヲ遵守シテ

祖先ノ遺訓

國事ニ當ラシメバ、猶未ダ甚ダシキ國家ノ慘狀ヲ来サザリシヤ必セリ、往昔回教ノ埃及ヲ征服シタル時、子孫ニ遺言シテ曰ク、咨爾主權者ヨ、我が埃及ヲ治ムルニ重大ナルモノニアルトヲ記臆セヨ、第一ハ賦稅ヲ増加セントスル財政家ノ甘言ヲ聽ク勿レ、第二ハ灌溉ニ國稅ノ三分一ヲ費スベシ、然ルトキハ埃及國ハ永ク富強タルヲ得ベシト、而シテ威斯明流ハ皆之ニ違反シタリ。

事業ヲ起シタル主意

威斯明流ガ爲ス所ノ事業ハ、國家ニ適スルト否ト、人民ニ利アルト否トハ、之ヲ問フニ違アラズシテ、唯專ラ歐洲人ノ感情如何ヲ先キニシタルニ在リ。國家ニ

必要ナルモノモ歐洲人ノ意ニ充タズンバ敢テ之ヲ斷行セズ、人民ニ不利ニシテ一國進歩ノ程度ニ合セザルモノモ歐洲人ノ心ヲ悦バシムルモノハ直ニ之ヲ施行セリ。鐵道、運河、燈臺、電信、橋梁等ノ大工事ハ、實ニ威斯明流ノ熱心ニ計畫シタル所ニシテ、後來人民ハ其利ヲ享ケタルコト少カラザレドモ、然レドモ此工事モ亦唯自己ノ功名ヲ貪ルヨリ出テ、真成ニ人民ト國家トノ利害如何ヲ慮リタルニ因ルニ非ザルナリ。其他學校ノ設立、裁判構成法ノ改革ノ如キモ、亦皆然ラザルハナシ。

威斯明流が一代ニ成就シタル諸工事中、鐵道ハ一千一

工業ノ大ナルモノ

百英里電信線ハ三千七百五十英里ニ延長シ、燈明臺ハ廿餘基ヲ建築シ、其他大金ヲ棄テ、歷山港ノ水道ヲ穿通シ、其水ヲ引クニ盡ク蒸氣力ヲ以テシ、煤氣燈ヲ建テ、市街ヲ照シタルガ如キ、著明ナルモノナリ。又威斯明流ハ一時埃及ノ耕地五分一ヲ私用ニ消費シタルコトアリ、是レ悉ク驕奢ノ資ニ供シタルニ非ザレドモ、其大半ノ消費ハ亦歐人ノ歡心ヲ買ハント欲シタルニ外ナラズ。

威斯明流が登位以來計畫シタル事業ハ、甚ダ多ク、隨テ又國家ノ効益ヲナシタルモノ無キニ非ズト雖モ、然レドモ其土國ニ關スルモノハ、皆賄賂ニヨリテ其志

嫡男相續法ヲ制定ス

ヲ遂ゲタルニ外ナラザルガ故ニ、賄賂ニ費シタルノ金額ハ實ニ非常ノ巨額ニ上レリ。威斯明流ガ事業中最モ大功アルハ、嫡男登位ノ相續法ヲ制定シタルニ在リ、蓋シ貴賤尊卑ニ論ナク、其事務ニ勵精スルハ、一ハ自身ノ名利ヲ計リ、一ハ子孫ヲ愛憐スルノ情ニ出ヅルモノニシテ、若シ之ヲ繼續スベキ子孫ノ定マラザル時ハ、其事業ヲ奮勵スルノ勇氣ヲ害スルハ、勢ノ免レザル所ナリ、且侯家王家ニ在リテ相續法ノ定マラザルハ、其害此ニ止マラズ、時ニ陰謀ヲ運ラシ、覬覦ヲ懷クノ人アリテ、國家ヲ亂ルコト往々ニシテ之レ有リ、一國ノ不幸焉ヨリ大ナルハ莫シ、是ヲ以テ先

王明平滅土、阿黎ハ主トシテ相續法ヲ確定セントカメタリ、而ルニ歐人ノ妨グル所トナリ、其志ヲ達スル能ハズ、威斯明流ニ至リテ始メテ其制定ヲ見ルニ及ベリ。威斯明流ノ之ヲ制定スルヤ、諸貴族及ビ土耳其黨ト稱スル守舊派其他土耳其帝ハ皆異議ヲ唱ヘテ之ヲ妨碍セリ、然レドモ威斯明流ハ能ク之ヲ排斥シテ巧ニ其策ヲ運ラシ、遂ニ國家長久ノ良圖ヲ建立セリ。即チ威斯明流ノ始メテ土京ニ朝シタル時ハ、其待遇甚ダ厚カラザリシガ、威斯明流ハ先ツ二十五萬弗ヲ土廷ノ大臣ニ贈リ、其歡心ヲ結ビ、埃及自ラ財政ヲ調理スルノ特許ヲ得タリ、是レ重大ノ負擔ヲ免レタルモ

財政整理ノ特許ヲ得

自主ノ款

長子受産ノ令ヲ得

ノナリ、從來財政ハ土廷ノ認可ヲ得ザル可カラザル
 モノニシテ、其認可ヲ受クル毎ニ、土ノ財務官ニ贈ル
 所ノ賄賂ハ、實ニ非常ノ金額ナリ、今ヨリ之ヲ免レタ
 ルハ、威斯明流ガ事業中ノ一功績ト謂フベシ。威斯明
 流ハ是ニ於テ土廷ノ内情ヲ洞察シ、再度ノ朝勤ニ於
 テ、四百五十萬弗ヲ土帝ニ奉ケ、大ニ厚遇ヲ蒙フリ、此
 ニ始メテ素願ヲ達シ、相續法及自主ノ款ヲ得タリ、實
 ニ一千八百六十三年七月九日ナリ。
 一千八百六十六年又土廷ニ賄フテ長子受産ノ令ヲ得。
 回教ノ法父死スルトキハ數子ニ家産ヲ分配スルニ在
 リ、今之ヲ廢シテ唯長子父ノ遺産ヲ襲グコト、爲ス。

土耳其帝ノ詔

一千八百六十七年九月又賄賂ヲ以テ位ヲ進メテ藩王
 トナル、時ニ土耳其帝ノ詔ニ曰ク、
 宣シテ朕ガ赫々タル大臣埃及ノ主長、威斯明流ニ
 示ス、朕天神ノ卿ガ光榮ヲ保全シ、威力ヲ増加シ、福
 運ヲ進抄センコトヲ願ヒ、誠意ヲ以テ此詔ヲ裁ス。
 卿夫レ此詔ヲ讀ンテ、以テ朕ガ意ノ在ル所ヲ了セ
 ヲ。朕ガ此詔ハ、世襲ノ權利ヲ埃及ノ主長ニ與フル
 モノナリ、埃及ノ統御ハ土耳其建國ノ法ニ遵ヒ、且
 正理ト公平トヲ以テセヨ、埃及ノ内治ニ至テハ則
 元是レ埃及政府ノ政權ニ屬スベキモノタリ、故ニ
 朕ハ卿ニ附與スルニ内治ニ限り、特ニ命令ヲ發ス

ルノ權ヲ以テセン、然レドモ朕ガ帝國ノ訂結セル各國條約ハ、埃及國內ニ於テ其効力ヲ有スル決シテ前日ニ異ナルユトナカルベシ。朕又卿ニ附與スルニ海關ノ稅務、居留人民ノ事宜、貨物ノ運輸、及ビ郵便事業ニ關シ、各國ト商議スルノ權ヲ以テス、但シ其訂結スル所ノ條約ハ、國際條約又ハ政治ニ關スル條約タルユトナキヲ要ス、其訂結スル所ノ條約ニシテ苟モ此ノ條件ニ抵觸シ、埃及ノ主權者タル朕ガ帝國ノ根本權利ヲ侵害スルトキハ、總テ之ヲ無効ノ條約ト認定スベシ、埃及政府ニ於テ其訂結スル所ノ條約ニ就テ、朕ガ帝國ノ根本法ニ背

戾スルノ恐レアリト認め、疑義ノ生ズルアルニ當テハ、其訂結ニ先チ、土耳其帝ニ具申シ、進止ヲ取ルベシ。又埃及政府ニ於テ時ニ海關稅則ヲ釐革創定スルトキハ、正當ノ順序ヲ以テ之ヲ土耳其政府ニ報告スルヲ要ス、土耳其帝國モ亦外國政府ト一條約ヲ締結スルニ當リ、事ノ埃及國貿易ニ關スルモノハ、之ヲ埃及政府ニ示シ、以テ其利益ヲ保護スルコトヲ務ムベシ。以上示ス所ノモノニ就テ、卿能ク朕ガ意ヲ了スベキヲ信シ、命ヲ內閣ニ下シ、此詔ヲ裁シ、以テ之ヲ卿ニ傳ヘシム。

一千八百七十三年、更ニ新詔ヲ得テ殆ト獨立國トナ

リ、貨幣ヲ鑄造スルノ外、紙幣發行行政、司法、兵事、財政、外國條約ノ權ヲ得。蓋シ此諸權ヲ得ルガ爲メニ、土廷ニ上納スル金額ハ、毎年三百四十萬弗ヲ超過スルニ至レリ。

遠征版圖ヲ擴ム

威斯明流ハ又遠征ニ從事セリ、即チ紅海ニ在ル散奇夢、末宗和、及ビ亞典灣ニ在ル稅羅、米留米刺ノ四市港ヲ土耳其ヨリ得テ、更ニ之ニ満足セズ、亞米朱似亞ヲ伐テ其一部ヲ占メ、進テ其王國ヲ圍ムノ勢ニ至リ、又遠ク南方ノ蠻族ヲ征服シ、蘇丹ヲ併略シ、英人米加流及ビ豪兒電等ノ言ヲ容レ、一千八百六十九年ヨリ位ヲ失フマデ奴隸賣買ノ抑壓ニ從事セリ。是ニ於テ

威斯明流ハ其版圖ヲ擴張シ、大功ヲ奏シタルヲ誇リ、自ラ以爲ラク、我ハ是レ千古^ノ明主ナリト、然レドモ其新ニ得タル土地ハ有名無實ニシテ、地稅ヲ納ムルニアラズ、兵役ニ服スルニアラズ、更ニ國家ノ利益ヲ導クコトナシ。而シテ其遠征ノ爲メニ國債ヲ起シタルモノ甚ク夥シク、負擔ノ餘波延イテ蘇丹ノ獨立トナリ、其略有シタル領土ハ再ビ之ヲ失ヒ、并セテ使勇ノ豪兒電須端禮等ヲシテ、空シク異域ノ鬼タラシムルニ至レリ。又歐人ノ脅迫日ニ甚クシキニ及ビ、威斯明流ハ暫ク其苦厄ヲ脱セント欲シ、先ツ剛直ノ亞刺飛ヲ群臣中ニ舉ゲ、渠ヲシテ一時歐人ヲ抑制セシメ、

亞刺飛ヲ放歸セントス

而シテ後罪ニ陷レテ、白河ニ放謫セント計レリ。
 威斯明流ハ又數多ノ宮殿樓閣ヲ建築セリ、是レ一種
 ノ歐人ト官吏ガ利ヲ盜マント欲シテ勸メタルト、耳
 目ノ歡樂ヲ極メント欲シテ自ラ企テタルトニ基スト
 雖モ、然レドモ要スルニ、歐人ヲ饗應シテ驕奢華美ニ
 誇ラントスルノ念ヨリ出テタルモノ多シトス。蓋シ
 久シク佛國ニ在リ、彼ノ壯麗美麗ノ館裡ニ住シ、奢侈
 ノ空氣ニ浸染シテ、頗ニ故國ニ歸リ、陋屋ニ住スルノ
 不快ニ堪ヘズ、又歐人ニ對シテ羞ツルノ念ヲ懷キ、加
 之ナラズ、心醉ノ餘自國ノ長處、自國ノ美術モ悲ク歐
 人ニ及バザルモノトシ、玉石ヲ混同シテ之ヲ厭棄シ

總ベテ歐風ニ模倣セリ、殊ニ朱武良離宮ノ噴水器ノ
 如キハ、獨乙索遜ニ鑄造シタルモノニシテ、其運送費
 ハ一萬弗ニ及ビ、之ヲ築クニ四萬弗ヲ費セリ。其他室
 内裝飾ノ金石ハ、皆伊太利ヨリ輸送シ来リタルモノ
 ニシテ、光彩燦然實ニ目ヲ奪フベシ、其驕奢亦想像ス
 ルニ堪ヘタリ。又外人ヲ崇拜スルノ餘、唯其歡心ヲ得
 ント欲シ、自國ノ遺寶珍器復得可カラザルモノヲ以
 テ、漫然贈與シ典賣シテ、殆ド盡クルニ至ル、是レ在留
 ノ外人スラ、且嘆惜スル所ニシテ、其迷惑實ニ甚ダシ
 ト謂フベシ。

海樓府ノ書籍館ハ實ニ威斯明流ノ設立スル所ナリ、

藏書ノ多キ唯龍動、巴理、都蘭ノ書籍館ノミ之ト比スルニ足ルベク、其波斯書典ノ多キニ至リテハ、天下又匹ヲ見ズ、是レ實ニ威斯明流ノ美舉トシテ稱セザルヲ得ザル所ナリ。然レドモ要スルニ是亦真ニ學事ヲ獎勵スルニ出ヅルニアラズ、其力ヲ量ラズ漫リニ虛名ヲ世界ノ大國ト競ハントスルニ出デタルニ過ギザルナリ。

威斯明流ガ應接ノ狀

威斯明流ハ親ヲ細務ヲ執リ、諸人ト應接スルコトヲ好メリ、即チ毎日亞武殿宮ニ出御シ、諸書亂堆中ニ坐シ、側ラニ書記官ヲ置キ、之ヲシテ往復ノ簡牘電信等ヲ傳達セシメ、一々自ラ之ヲ料理シ、而シテ又内閣員

地方官等ノ參朝ニ面會シ、勅令ヲ授ケ、批准ヲ與ヘ、外人ノ或ハ勸誘ニ要求ニ來ル者、或ハ游歷學士、或ハ新聞記者等ニ面謁シ、應答談話スルヲ常トセリ。而シテ其諸人ニ對スルノ風ハ一樣ナラズ、書記官ニハ語短クシテ威嚴ニ、内閣員ニハ明亮ニシテ決斷ニ、地方官ニハ反覆懇到ニ、外國商工ニハ精細緻密ニ、貴賈ニハ敬禮ヲ盡シ、學士新聞記者ニハ信切丁寧ナリ。且其居止動作一二歐風ニ從フヲ以テ、始メテ威斯明流ニ逢フモノハ、皆其厭悟賢明ナルニ感服セザルナシ、故ニ其名聲一時歐洲ヲ震動セリ。蓋シ威斯明流ガ此ノ如キ行爲ハ、多ク名ヲ賣リ功ヲ貪ボルヨリ出デタルモノ

名聲一時歐洲ヲ動ス

ニテ忠ト邪トヲ辨ズル能ハズ、利ト害トヲ詳ニスル能ハズ、己レニ媚アルモノヲ用ヒタルニ過ギザルガ故ニ、國家真成ノ福利ニ至リテハ、威斯明流ノ事業中甚々稀ナル所ナリ。

農事ノ大改革

威斯明流ハ又農業ノ大改革ヲ爲シ舊時ノ小農ヲ廢シテ歐風ノ大農法トナセリ。從來土地ハ幾多ノ小部分ニ散在シ、人民ハ各々分レテ灌溉ニ從事シタリシガ、威斯明流ハ歐人ノ理論ヲ妄信シ、無用ヲ變ジテ有用トナスノ主義ニ從ハント欲シ、先ツ王室所有地ヨリ大英斷ヲ以テ大農法ヲ實施シ、遂ニ畫一ノ制ヲ全國ニ試ミント計畫シ、小農ヲ官有地ニ配附シ、中間ニ鐵

無計算ノ企業

道ヲ縱横シ、倉庫、牧馬所、製造處等ヲ連聯シ、以テ其面目ヲ一新セリ。之ガ爲ニ全國ノ未開地ヲ開拓シタルハ甚々多シト雖モ、其費シタル金額ハ又最モ莫大ニシテ、之レヨリ生ズル弊害殊ニ夥シク、損失長ク相償フノ期アルヲ見ズ。即チ其始メテ即位ノ時ハ、王室所有地一萬五千「エークル」ニ過ギザリシガ、晩年ハ九十五萬「エークル」ノ廣キニ至レリ、而シテ中央ニハ廣大ナル砂糖製造所木綿紡績所等ヲ建築シ、以テ其耕地ヨリ収獲セル原質ヲ製造セリ、然レドモ其製造所建築ノ費用ハ一千五百萬弗ニ上リ、又最初ヨリ原質ノ良否供求ノ多少ヲ深ク調査セズシテ着手セシヲ以

テ、豫算ニ違ヒ、休業スルユト多ク、器械ハ鏽蝕シ家屋ハ破損シ、而シテ官吏ノ俸給及ヒ時々ノ修繕費等ヲ計レバ、亦最モ巨額ナルヲ以テ、決シテ出入相償フコト能ハズ、故ニ威斯明流ノ大農法ハ大ニ埃及ノ農業ヲ妨ゲ、人民ヲシテ困厄ニ陥ラシムルノ一大原因トナレリ。

三角塔下ノ道路

今日三角塔ニ通ズルノ道路ハ、又威斯明流ノ築ク所ニシテ、數里ノ間樹木兩側ニ繁茂シ、坦然宛モ砥ノ如シ、是レ蓋シ他ノ必要アリテ改築セシモノニアラズ、一千八百六十八年英國皇太子埃及ニ遊ブニ方リ、太子ヲシテ馬車ヲ驅テ三角塔下ヲ遊覽セシメンガ爲メ、

灘江ノ船長

豊饒ノ田畝ヲ潰破シテ、故ラニ此大土エヲ起シタルナリ、其兩側ノ大樹ノ如キハ、土地沙磧氣候炎熱ナルガ故ニ、培養ノ困難費用ノ莫大ナル實ニ他邦人ノ想像スル能ハザル所ナリ。今日ヨリ之ヲ見レバ真ニ憫笑ニ堪ヘザルナリ。又威斯明流ノ時、灘江ノ漁船ニ乗ズル外人ハ、必ズ其船長ノ爲ニ船中ノ待遇ニ満足シタル證書ヲ授ケラレシコトヲ請ハレザルハナシ、而シテ船長ノ待遇ハ實ニ優渥ニシテ、怙々畏縮ノ狀、他方ニ見ル能ハザル所ナリ、是レ蓋シ威斯明流ガ命令ニ基クモノニシテ、若シ其船長ニシテ、外人ノ謝狀ヲ有セズ、或ハ外人ニ不満ヲ訴ヘラルトキハ、直ニ懲

戒ヲ蒙フリ、罰俸ヲ科セラル、ヲ常トスルニ由ルナ
リ。外人ヲ厚遇スルヤ好シ、然レドモ阿諛此ノ如キニ
至リテハ、國民獨立ノ精神ヲ消滅セシムル勢カラズ、
亦是レ威斯明流が大過ト謂フ可シ。

晩年ノ外債

其晩年ニ至リテハ、外國債五億三千萬弗ヲ超エ、財政
ノ紊亂名狀スベカラズ、因テ威斯明流ハ百方苦慮、窮
策一時ヲ彌縫シ、外人ノ信用ヲ恢復セントシ、或ハ洲
越運河ノ開業式ニ古今未曾有ノ盛大ヲ極メ、二千百
萬弗ヲ費シ、以テ國力ノ餘裕アル外觀ヲ衒ヒ、或ハ憲
法ノ帝王ハ神聖ニシテ侵ス可カラザルノ格言ニ據リ、
責任ヲ大臣ニ歸センガ爲メニ、時期ヲ顧ミズ急ニ立

廢位

憲政治ヲ建テ、歐人ノ好評ヲ買ハント欲シ、或ハ司
法改革ヲ名トシテ、混合裁判所ヲ設立シ以テ外國ノ
信用ヲ得ント欲シ、或ハ自己ノ器物ヲ國債ノ爲メニ
賣却スルト稱シテ其幾分ヲ賣リ、以テ内外人ノ愛憐
ヲ求メント欲シ、而シテ其極行政、立法、司法ニ諸強國
ノ干渉ヲ受ケザルナク、人民塗炭ニ陥リ主權既ニ去
リ、當外人ノ輕侮ヲ受クルノミナラズ、一國ノ人望モ
亦全ク斷絶シ、其位ヲ廢セラル、ニ至レリ。其廢位ハ
實ニ一千八百七十九年ノ六月廿六日ニシテ、英、佛、獨
逸、以ノ勸告ニ因ルト云フモ實ハ、外國領事ノ脅迫ス
ル所ニ係ル。其原因ハ種々アリト雖モ、英佛人ヲ内閣

ヨリ退ケタルト獨乙領事ヲ凌辱シタルガ近原ナリト云フ。米ノ一名士、曾テ歎シテ曰ク、東洋ニ駐在スル、各國領事ノ權力ハ、歐米ニ在ル各國公使ヨリモ大ナリト、証言ニ非ザルナリ。蓋シ當時獨乙ガ威ヲ東洋ニ張ラントシタルハ赫如タル事實ニシテ、曾テ内閣員相會シテ外人ニ償フベキ國債ノ所置ヲ協議シタリシトキ、獨乙領事ハ傍聽席ニ在リシガ、突然起立シテ辯論シ、徒ニ英佛ノミニ放任スル能ハザルノ語氣ヲ示シ、隱然自國ノ威カヲ誇張シ大ニ英佛人ヲシテ驚愕セシメタルコトアリ、是レ比須麥^{ヒスマーク}ガ東洋政略ノ爲ニ埃及事件ニ干渉シ、時期ヲ窺ヒ、洞燭以テ英佛ノ權力ヲ挫

王ガ憤悲ノ言

カント欲シタルニ由ルモノニシテ、其威斯明流ヲ廢スル議ノ伯林ヨリ出デタリトノ説ハ信ヲ措クニ足ルベキナリ。

威斯明流ガ其位ヲ退ケラレ、國中ニ居ルヲ禁ゼラレ直ニ宮殿ヲ出ルニ臨ミ、慘然涙下リ、舊知ノ外人ニ語リテ曰ク、我が不幸ナル邦國ハ、他日必ズ汝ガ志禮須^{シレズ}守區^{ウエグ、ハウル、ス、ダイ、ン}房留須多院^{ハ、}タランノミト。

和禮須ノ論

和禮須曰ク、明平滅土、阿梨ノ在世中ハ、雇聘ノ外人ヲシテ威權ヲ内政ニ振ハシメザルノミナラズ、他ノ臣民ト同シク國法ヲ遵奉セシメ、其待遇更ニ内外國人ノ別ヲ置カズ、其後威武刺飛夢、阿馬斯二王モ亦祖

志ニ從ヒ、更ニ敢テ王室ノ権力ヲ損セズ、外人ヲシテ政令ノ下ニ服從セシメタリ。而ルニ濟度ノ世ニ至リ、網紀漸ク弛廢シ、隨テ外人ノ勢力ヲ増シ、動モスレバ則チ内政ニ關セントスルノ端ヲ啓キ、威斯明流ニ至リテハ城郭ヲ破リテ、自ラ之ヲ誘入シタルガ如ク、外人ヲシテ擅ニ内政ニ干涉セシメタリ。其始メハ之ヲ以テ我が宏度大量ヲ誇ルガ如ク、獨リ自ラ揚々タリシガ、其極制御ス可カラズ、百事百物悉ク其指顧ニ從ヒ、遂ニ自家ノ王位モ亦其褫奪スル所トナリ、自家ノ一身モ亦其追逐スル所トナルニ至ル、其迹ニ就イテ之ヲ見レバ、實ニ憐ムベシト雖モ、而レドモ要スルニ

是レ自ラ取ルノ禍ト謂ハザル能ハザルナリト。

麻魯提男ノ論

麻魯提男曰ク、威斯明流ガ歷山港ヲ改築スルニ當リ、英人ト約シタル契約書ハ、實ニ急速ノ間ニ起草シ、十分ノ調査ヲ遂ゲズシテ調印シタルモノニシテ、此ガ爲メニ大凡七百五十萬弗ハ徒ニ枝疋ナル英人ノ手裏ニ入レリ。然レドモ是レハ唯百中ノ一例ノミ、實ニ歐人ノ契約ハ、一トシテ正當ナルモノナシト謂フモ、余ハ決シテ誣ザルヲ信ズルナリ。蓋シ歐人ノ慣手段トスル所ハ、各種ノ事業ヲ王ニ勸說シ、其容ル、所トナルヤ、速ニ之ヲ成就センコトヲ迫リ、王ヲシテ左右顧慮ノ違アラザラシメ、其間ニ利セントスルニアルナ

リ。而シテ王亦東方皇子ノ常習ヲ免レズ、深ク事物ニ精査ヲ加ヘズシテ、歐人ノ巧陳スル所ニ從ヒ、其甘言ニ應ズルヨリ、遂ニ不幸彼が如キ蠶臍ノ契約ヲ見ルニ到レリ。又王ハ溝渠開堀ノ事業ニ於テ、益々費用ノ急迫ヲ来シ、後難ヲ測ラズシテ歐洲金主ノ甘言ニ乘ジ、喜デ一時ヲ利シタリ、是レ亦大患ヲ生ズルノ源トナレリ。蓋シ王ノ事業ニ於ケル、例ヘバ豪農が多量ノ収獲ヲ得ント欲シ、其費用ノ多寡ヲ問ハザルが如シ、唯其目的ヲ達セントスルニ急ニシテ、又其損益ヲ計ラザルナリ、故ニ國事遂ニ歐洲金主ノ手中ニ落チ、嘗ニ財政上其抑壓ヲ受クルノミナラズ、政治上悲慘言フ

可カラザルノ状態ニ陥レリ。抑貪慾虎狼ノ如キ歐洲金主ハ埃及ヲ以テ最好ノ狩獵場トナシ、其捕獲スベキ物件ニシテ存ズル間ハ、本國政府ノ許サザル高利ノ利子ヲ以テ資金ヲ貸與セント欲シ、百方巧言ヲ以テ、王ノ周圍ニ蠭集セリ。是ヲ以テ土耳其政府ハ、其外債ノ極メテ危険ナルヲ見、之ヲ禁制シタリシガ、金主等ハ巧ニ其法令ヲ潜リ、政府歳入ハ勿論王所有ノ財産ト雖モ之ヲ抵當トナシ、其資ヲ供スルノ途ニ於テ、術到ラザル所ナキナリ。而シテ一旦典物領取ノ機熟スルヲ看ルトキハ、返債ヲ督促スルニ酷烈ナルユト、貪吝苛虐ノ頑爺ト雖モ尚ホ及ブ能ハザルモノアリ。

故ニ其貸借ニシテ普通人民ノ間ニアラシメバ、法庭ハ必ズ其不當法外ナル要求ヲ容レズ、相當ノ額ニ之ヲ減殺スルヤ明カナルモ、如何セン、一方ハ是レ東方ノ一弱國主ニシテ、一方ハ則チ其本國政府ノ權威ヲ借リ、其請求ヲ貫通スルノカアレバ、法庭ノ權モ亦及フ能ハサルナリ。且此際各國政府ノ其臣民債主ヲ保護センガ爲メ、埃及國ヲ遇スルヤ、警吏ノ不良ノ徒ニ於ケルガ如シ。歐洲諸國ハ曾テ土國政府ノ財政ニ干涉ヲ試ミタルコトアリト雖モ、之ヲ埃及ニ較スルトキハ實ニ同日ノ談ニアラザルナリ。且債主ヲ保護スルヲ以テ、正當ノ法トナス時ハ、内國債主ト雖モ、其

權理ニ於テ輕重ノ別アル可カラズ、然ルニ歐洲各國ハ王ヲシテ其内國官吏軍人等ノ給料下渡ヲ停止シ、獨リ外國債主ノミニ支拂ヲナサシメタルハ、不法モ亦甚ダシキモノニシテ壓制ノ極ナリト謂フ可シ。嗚呼歐人ノ利己專恣己ニ斯ノ如シ、而シテ埃及國民タルモノ、就中官吏軍人ノ如キ、動モスレバ九ヶ月間モ俸給ヲ得ル能ハズシテ、獨リ歐人得意ノ狀ヲ見ル、其慷慨悲憤ノ念果シテ如何ゾヤト。

第十

洲越運河。

洲越運河ハ、佛人勵節夫^{レセツフ}ノカニ頼リテ成ル所ノモノ
 ニシテ、實ニ十九世紀中ノ一大工事ナリ。五洲ノ商業
 ヲ利シ、世界ノ文明ヲ進メタルノ功ハ、真ニ異常ナリ
 トス。即チ運河ノ疏通ヨリ以來、歐洲東洋相航行スル
 ノ里程殆ド四千英里ヲ縮メ、三十八九日ノ日子ヲ節
 シタリ、亦以テ其波及シタル利益ノ大ナルヲ見ルベ
 シ。蓋シ此大功ハ一ニ勵節夫ガ堪忍不拔ノカニ由ル
 コト素ヨリ論ヲ俟タズト雖ドモ、而レドモ亦時勢ノ
 カ之ヲ助ケタルコト更ニ甚ダ大ナリト謂ハザル可カ

運河ノ利益

ラズ。何トナレバ、是レヨリ先キ、雄才大略勵節夫ノ上ニ出ヅル數等ノ士、之ヲ企圖シ、之ヲ創始シ、而シテ遂ニ其志ヲ果ス者ナク、勵節夫ニ至リ始メテ此大功ヲ遂ゲタルハ、他ニ其原因ナクンバアラザルナリ。而シテ其原由ハ他ナシ、時勢ノ一事ニアルノミ。勵節夫ハ實ニ此好時勢ニ會シタルモノニシテ、勵節夫以前ノ起業家ハ皆未ダ其時勢ヲ得ザリシナリ。故ニ勵節夫ヲシテ更ニ數年前ニ在ラシメバ、堪忍此ノ如ク、不拔此ノ如クナルモ、遂ニ其業ヲ遂グル能ハズシテ止ミタルヤ必セリ。勵節夫ヲシテ其功名ヲ青史ニ舉ゲシメタルハ世界ノ大勢ニシテ、文明ノ發達ト螺旋船ノ

時勢功業ヲ助ク

發明トニ之レ由ルト謂ハザルベカラズ。若シ螺旋船ノ未ダ世ニ出デザル時ニ在ランカ、狹隘淺低ナル海峽ヲ航スルハ最モ航海者ノ不利トスル所ニシテ、且内海ハ暗礁ノ險アリ、紅海ハ颶風ノ懼レアリ、而シテ喜望峯ヲ迂回スルトキハ、香港タル大海、平安ニシテ暗礁颶風ノ航行ヲ惱マスナシ、然ラハ則チ誰カ安全ヲ棄テ、危険ヲ取ルモノアランヤ、運河ノ利ナキ此ノ如シ、之ヲ助クルノ人ニ乏シキ固ヨリ勢然ルベキナリ。而ルニ勵節夫ガ此業ヲ企ルニ當リテヤ、恰モ螺旋船ノ發明アリ、狹隘ナル海路ヲ行クコト極メテ自在ニシテ、加フルニ文明ノ進歩ハ最モ時間ヲ重シ、百

事逸速ヲ貴ブニ至リタルヲ以テ、世界ノ大勢ハ運河ノ利益ヲ助ケ、遂ニ此成功ヲ以テ氏ノ一身ニ歸セシムルニ至レリ。

二千年前ノ運河

抑始メテ洲越ノ地峽ヲ開鑿シタルハ、二千年前ノ事ニシテ、爾後通航スルコトヲ得タリシモ、漸クニシテ閉塞シタルモノナリ。史ニ曰ク、紀元前六百年代ニ當リ、寧區房王群臣ノ言ヲ容レズ、此開鑿ヲ試ミタリ、而ルニ忽チニシテ十二萬人ノ人夫ヲ死亡セシメタリ、因テ大ニ覺ル所アリ、乃チ神ニ託シ、群臣ニ告ゲテ曰ク、昨夜天神アリ、夢ニ余ニ告ゲテ曰ク、運河ノ爲メニ利ヲ享クル者ハ只蠻民ニ在ルノミト、余故ニ之

運河開通ノ事實

ヲ止メント、遂ニ其業ヲ廢セリト。此蠻民トハ平寧斯亞人ヲ指スモノニテ當時彼等ハ地中海紅海ノ航權ヲ掌レリ。然レドモ此王ノ外、之ヲ開鑿シテ其功ヲ遂ゲタルモノアルコト疑ヒナシ、曾テ一ノ紀念碑ヲ土中ヨリ採掘シタルコトアリ、是レ波斯ノ怠雄阿斯大王時代ノモノニシテ、其文ヲ見ルニ、當時運河落成ノ事ヲ記セリ。又史ヲ案ズルニ、紀元前三十二年安土尼阿區利無ノ戰ヲ終リ、埃及ニ歸ル、俱麗驚葩土羅之ヲ聞キ、船ニ財寶ヲ山積シテ、急ニ奔ラントス、然レドモ水淺クシテ舟通ズルコト能ハズト云フコトアリ、當時運河ノ尚存セシコト知ル可シ。第十八世紀後ニ

拿破倫ノ志

至リ、此開鑿ヲ企テタル者甚ダ多シ、然レドモ遂ニ其志ヲ果ス者ナシ。就中拿破倫一世ノ如キハ、最モ志ヲ此ニ注ギタルモノニシテ、其埃及遠征ノ目的モ亦一ハ此ニ在リシユト判然タリ。技師禮米流^{レベ}ノ策ヲ用ヒ、大ニ計畫スル所アリシガ、一ハ歐洲大亂ニ妨ケラレ、一ハ其測量ヲ誤リ、地中海ト紅海トハ高低甚ダシク水利最モ不可ナリトノコトヲ以テ、遂ニ其業ヲ起スニ至ラズシテ止ミタリ。其後ハ又之ヲ計ルモノナク、明平滅土、阿梨ノ雄略大志ナルモ、曾テ企望ヲ起サズ、會、其議ヲ奏スルモノ有ルトキハ、斥ケテ更ニ顧ミズ、蓋國家獨立ノ政策ヲ深ク謀リテナルベシ。濟度ノ

明平滅土、阿梨ノ遠慮

時ニ至リ、始メテ勵節夫ノ説ヲ入レテ其大ニ事ヲ起セリ。

勵節夫企業ノ原由

勵節夫ハ佛蘭西ノ人ナリ、少時一千八百三十一年埃及領事館ニ入り事務ヲ習ハント欲シテ歷山港ニ入ル會、惡疫大ニ流行シタルヲ以テ、檢疫ノ爲ニ久シク、船中ニ抑留セラル、終日無聊、群書ヲ亂抽シテ流閱ス、中ニ紅海地中海ヲ連接スルノ事業必要ヲ説クモノアリ、一讀豁然トシテ大悟シ、掌ヲ拍テ曰ク、英雄豪傑富貴ノ王公モ猶之ヲ成就スル能ハズ、然レドモ予ハ當ニ此事業ヲ以テ一生ノ任ト爲シ、必ズ其切ヲ奏シ以テ不朽ノ芳名ヲ青史ニ留メント、是レヨリ心ヲ此

一途ニ專ニシ、東西ニ奔走シテ其計畫ニ從事セリ。嗚呼人間萬事塞翁が馬、誰カ知ランヤ、彼ガ世界ニ轟クノ大名譽ハ、檢疫ノ拘留ヨリ發生セントハ。然レドモ勵節夫ヲシテ其事業ヲ大成セシメタル者ハ、英ノ士官和苦甫倫ワグホロンノカニ在リ、和苦甫倫ハ印度ト英國トノ交通ヲ便ナラシメンガ爲ニ、船舶ヲシテ洲越ヲ通過セシメント刻苦經營シテ其産ヲ傾ケ、其家ヲ破リ、成功ヲ見ル能ハズシテ一千八百五十年ニ貧困流離シテ死ス。勵節夫其後ヲ承ケ、成業ノ後一大碑ヲ洲越ニ建テ、其功ヲ表セリ。一千八百五十四年ニ至リ、漸ク計畫ノ熟セシヲ以テ、濟度ニ説イテ曰ク、微臣敢テ殿下

和苦甫倫ノカ

勵節夫濟度ニ説ク

ノ爲ニ空前絶後ノ一大功業ヲ開キ、殿下ノ芳名ヲシテ千歳ニ傳ヘシメ、埃及ノ國光ヲシテ五洲ニ輝カシメントス、是レ他ナシ、洲越ヲ開鑿シテ地中海紅海相航通スルコトヲ得ルニ至ラシムルニ在リ、殿下願クハ志氣ヲ激勵シ、謀慮ヲ遠大ニシ、猜忌權謀ノ外人、管見斗筭ノ賤臣ニ惑ハサル、コト勿ク、微臣ガ至誠至忠ノ計畫ヲ助ケヨ、若シ夫レ兩海ヲ貫通シテ三大陸ヲ連絡セバ、萬國ノ旗幟皆王ノ功德ヲ稱シテ陸續トシテ臻リ、沙漠ハ變ジテ百花芳ヲ競ヒ、荒野ハ化シテ人烟簇リ、國富ミ兵強ク、宇内ニ雄視センコト期シテ待ツベキナリ、果シテ此ノ如クンバ、獨リ貴國ノ利益

英國ノ反對意見

ナルノミナラズ、亦各國ヲ利スルコト極メテ大ナリ、乃チ殿下ガ功德ハ歳ト與ニ其光ヲ増スベク、古來英雄豪傑ガ人ヲ殺シ邦ヲ奪ヒ、名聲ヲ殘シタルガ如ク、比ニアラズシテ、人ヲ助ケ國ヲ益スルノ芳名ナリト。濟度其言ヲ信シ、直ニ之ヲ許シ、起業ノ意ヲ英佛二國ノ政府ニ通シ、委員ヲ海樓府ニ會シ、協議ヲ遂ケントス。時ニ英國ハ最モ之ヲ不可トシ、波明流須頓ダメルストン内閣ハ委員ヲシテ抵抗ヲ試ミシム、其說ニ曰ク、第一、洲越運河ノ開鑿ハ萬國ニ利益ヲ與フルモ知ル可カラザレトモ、其事業ノ成就スル時ハ、埃及國ハ亡滅ニ歸スベシ、第二、運河ノ開鑿ハ英國ガ歷山港ヨリ洲越マデ許可セラレタル鐵道ノ敷設ト競争ヲ生ジ、相與ニ損失ヲ来スベシ、第三、此事業ヲ成就スルトキハ、佛國人ノ威權漸ク盛大ニ赴キ、遂ニ埃及ヲ併呑スルニ至ルベシ、勢茲ニ到ラバ英國ハ黙視スル能ハザルナリ、第四、技師ノ測量ニ據ルニ、假令洲越ヲ開鑿スルモ、兩海高低アリ、且通路沙漠ナルヲ以テ、到底水ヲ通ズルコト能ハズト、是言ヲシテ其誠意ヨリ出デシメバ、埃及人モ耳ヲ傾ケシナランモ其利己主義ヨリ發シタル僻論ナルヲ以テ、最モ當時ニ非難セラレタリ。然レドモ濟度ハ此物議ノ紛擾ナルガ爲ニ遂ニ開鑿ヲ中止セント欲セリ。而ルニ勸節夫ハ陰ニ佛國ノ聲援ヲ頼ミ、又濟

中止セントス

勸節夫再ヒ濟度ニ説
ク

度ニ説テ曰ク、英國ハ既ニ鐵道敷設ノ許可ヲ得テ、殿
下ノ恩澤ニ浴セリ、而シテ特リ佛人ノ請ヲ容レザル
ハ何ゾヤ、是豈公平ト謂フ可ケンヤ、顧フニ此運河開
鑿ノ爲ニ直接利益ノ外ニ、間接ニ受クル所ノ利益ハ、
亦尠少ニアラザルベシ、即チ新發明ノ器械ヲ輸入シ
テ使用スルガ故ニ、役夫ノ之ヲ習熟スルヤ必セリ、他
日離江及諸運河溝渠ヲ浚渫修理スルニ際シ、非常ナ
ル便益ヲ享クルコト殿下ノ明察セラ、所ナルベシ、
亦是レ國家百年ノ大經濟ニアラズヤト。雄辯高談、遂
ニ濟度ヲ折伏シ、斷行スルコトニ決セシメ、遂ニ一千
八百五十四年各國ノ委員海樓府ニ調印シ、萬國洲越

萬國洲越運河會社ノ
公許

運河會社ノ名義ノ公許ヲ得タリ。

管理官ノ會議

次年、勸節夫ハ委員中ヨリ管理官數人ヲ招キ、千八百
五十六年海樓府ニ會シ、紅海地中海ニ海港ヲ開クコト
ヲ協議ス。時ニ英國ノ委員ハ猶自國技師ノ説ヲ執リ
テ曰ク、此開鑿ハ海面ヨリ高キヲ猶廿五尺アリ、離江
ヲ決シテ此ニ注グニアラザレバ海水ヲ疏通セシムル
コト能ハズト。然レドモ各國ノ委員ハ之ニ從ハズ、却
テ海面ヨリ低キヲ數尋ナリ、又容易ニ開鑿スルコト
ヲ得ヘシト主張シ、遂ニ英國委員ノ説ヲ斥ケタリ。百
事既ニ粗ボ決定スルヲ以テ、勸節夫ハ株金ヲ歐亞ニ
募集スルコトニ從事セリ、然レドモ此事業ヲ妨害セ

株金募集ノ困難

ント欲スル者ト、又其成功ヲ危ム者ト甚ク多クシテ、容易ニ募集ニ應ズルモノナキヲ以テ、勵節夫ハ最モ其心肝ヲ碎キタリ。漸クニシテ一半ハ埃及政府ヨリ、一半ハ歐洲株主ヨリ其資金ヲ得ルコト、ナリ、一千八百五十八年四月廿五日ニ至リ、濟度ニ説キ、企業ノ典ヲ舉ゲ、更ニ國カヲ舉ゲテ運河開鑿ニ從事シ、其成功ヲ見ルニ至ラザレバ廢止スル事ナシトノ誓旨ヲ出サシメ、又會社ニ許多ノ特權ヲ與ヘシメタリ。即チ會社ハ廣大ナル土地ヲ受ケタルノ外、飲料水ヲ疏通スルガ爲ニ灌漑ノ便ヲ得テ耕作ス可キニ至リタル土地ハ、悉ク會社ノ有ニ歸スルヲ得ルコト、開鑿ノ成功ニ

會社ト埃及政府トノ
特約

至ルマデ埃及政府ハ庸役ヲ人民ニ課シ、三月交代ヲ以テ數萬ノ人民ヲ出シ工夫ニ供スル事等是ナリ。而シテ工夫ノ最モ多キ日ハ三萬人ニ上リタルコトアリ。是ニ於テ勵節夫ハ又後顧ノ憂ナク、始メテ開鑿ニ從事セリ。

濟度ハ華奢ヲ極メ、先王ガ貯蓄セシ庫財ヲ亂費シ、資本ニ缺乏ヲ告ゲタルヲ以テ、一千八百六十二年、四千一百四十七萬弗ヲ年ハ朱ニテ英京龍倫ニ募ルノ已ムヲ得ザルニ至レリ。既ニシテ濟度死シ、威斯明流位ニ即クニ及ビテ、威斯明流ハ會社ノ特權非常ニシテ、國家人民ノ大不利ナルヲ觀破シ、夫ノ條約ヲ破棄セン

威斯明流前約ヲ破ラ
ントス

ト欲セリ。蓋シ濟度ガ始メ會社ニ許シタルハ、飲料水ヲ引クガ爲ニ自然ニ灌溉ノ利ヲ蒙フリタル土地ヲ與フルト謂フニ過ギザリシニ、此時會社ハ運河ヲ縱横ニ疏通シ其水ヲ灌溉シ、漸々其領地ヲ擴ムルコト際限アルコト無ク、又開鑿ノ地ハ苦熱最モ甚ダシク、勞力堪フル能ハザルヨリ、工夫ノ死亡日ニ益々多ク、慘狀實ニ見ルニ忍ビズ、英國其他ノ諸國モ痛ク之ヲ難シ、器械ヲ以テ人力ニ代ヘ、以テ此ノ如キ刻薄ノ行爲ヲ止ム可シトスルモノ多キガ故ニ、此ニ威斯明流ハ會社ニ向ヒ、土地讓與及ビ工夫供給ノ條約ハ破棄スベシト要求セリ。

拿破倫三世ノ仲裁

二千萬弗ノ償金

此要求ハ忽チ歐洲ノ一大論題トナリ、遂ニ仲裁ヲ三世拿破倫ニ托スルニ決シ、拿破倫ノ仲裁ヲ以テ、埃及政府ハ二千萬弗ノ償金ヲ會社ニ拂ヒ、二大特權ヲ廢スルニ至ル。

運河開通ス

運河會社ハ工夫ヲ埃及ニ得ザルニ至リシヲ以テ、則チ新器械ヲ輸入セリ。然レドモ器械ヲ運轉スルニ適スルノ技師ナキガ故ニ之ヲ歐洲ニ募ラザルヲ得ズ、是ヲ以テ開鑿事業ハ一時其歩ヲ弛ベタリ。然レドモ久シカラズシテ衆多ノ技師ヲ招聘シ、千八百六十九年遂ニ其志ヲ達シ、紅海地中海ノ兩水ヲ注瀉シ、大船相航通スルヲ得ルニ至レリ。其兩水相混合スルノ時

運河ノ長サ

ニ當リテハ、水勢澎湃、高ク天ヲ蹴テ、響兩崖ニ震ヒ、
實ニ希代ノ絶觀ナリシト云フ。
洲越海峡ノ全長ハ、八十八英里ニシテ、人エヲ以テ開
鑿シタルハ六十六英里間ナリ。其十四英里ハ湖水又
ハ沼澤ヲ利用シ、其八英里ハ天然ノ低地ニシテ、開鑿
ヲ要セザルモノナリ。

此運河ニ消費シタル現金額ハ、總計一億萬金ニシテ、
其六千四百萬金ハ株主ヨリ出シ、三千六百萬金ハ埃
及王ノ手ヨリ出テシ所ナリ。然レドモ、會社ニ拂ヒシ
二千萬ノ償金ノ如キ、賦役ヲ以テ王夫ヲ供シタルガ
如キ、土地讓與ノ如キ、方外ナル開業式入費ノ如キヲ

合算セバ、億萬ヲ超過スルコト必セリ。

此年十一月十六日洲越運河ノ開航式ヲ舉グ、時ニ埃
及政府ハ歐米各國ノ王侯豪富ヲ招待シ、前古未曾有
ノ盛典ヲ以テ饗應セリ、其資金ハ二千百萬金ニ上レ
リト云フ、復タ以テ想見スヘシ。

二千百萬金ノ開鑿費

純益金

運河會社ノ株券ハ其純益甚大ナリ、最初ノ報告(千
八百七十一年)ニ據レバ、純益百七十四萬金ニシテ、近
年ノ報告ヲ見レバ、一千三百五萬金ノ純益ナリ。

洲越運河ノ開鑿ハ、實ニ此ノ如シ、其未前ノ大業ニシ
テ且難事タルヤ知ルベシ、然レドモ今日ヨリ之ヲ見
レバ、猶狹クシテ且淺キノ憾ナクンバアラズ、是故ニ

兩崖ノ崩壞スル恐レアルヲ以テ大船ハ速航スルコト能ハズ、然ラザルモ亦砂上ニ乘リ上グルノ恐レアリ、一船砂上ニ乘リ上グル時ハ、數船空シク之ガ爲ニ滯留セザル可カラズ、若シ此開鑿ヲシテ更ニ廣ク且深カラシメバ、其便タル決シテ今日ノ比ニアラザルナリ。是ヲ以テ今日別ニ獅利亞ヨリ死海ニ通ズルノ運河ヲ鑿タント企圖スルモノアリ、是レ多クハ英人ニシテ、其說ニ曰ク、今洲越運河ヲ改鑿スルハ非常ノ巨費ヲ要セザルヲ得ズ、而シテ洲越ノ地タル砂漠ナルヲ以テ、之ヲ改鑿スルモ漸クニシテ又舊ニ復スルコト必セリ、然ラバ則チ寧ロ別ニ好地ヲ撰ビ、新開スル

ニ若カズ、其費用ノ如キモ五千萬金ニシテ足ルベキノミト。然レドモ其裡面ヲ見レバ、全ク英人ノ組織スル會社ニシテ、之ヲ支配シ、東西ノ實權ヲ掌握セント欲スルニ外ナラザルモノ、如シ。記者ノ土耳其ニ在ル、數、其主唱者ニ會セリ、然レドモ今日新運河ヲ開カバ、洲越運河ヲ畫斷ニ歸セシムルモノニシテ、其不利益タル最モ大ナリトノ意ヲ以テ反對スル者多キヲ以テ、未ダ甚ク勢力ヲ得ザルモノ、如シ、然レドモ洲越運河ノ狭クシテ且淺キハ普ク歐洲人ノ憾ム所ナレバ、或ハ之ヲ改鑿スルカ、或ハ新ニ開鑿スルカ、未ダ知ルベカラザルナリ。

第十一

裁判構成

裁判構成

元來埃及ノ法律ハ回回教經典ト風俗習慣トヲ斟酌シ、
 更ニ之ヲ學理ニ參シテ制定シタルモノナリ。而シテ
 之ヲ制定シタルハ學識アリ經驗アル四人ノ博士ニシ
 テ、幾多ノ歲月ヲ積ミ、研究討議、漸ク成功シタルモ
 ノナレバ、完全ト稱スルニ足ルベク、之ヲ歐洲各國ニ
 運用スルモ亦甚ダ矛盾セザル所ナリ。然ルニ漸々世
 ト與ニ變遷シ、政府ト與ニ荒替ニ傾キ、立法、行政、相
 混亂シ、賄賂大ニ行ハレ、歐人之ニ干涉シ、終ニ徒法
 空文ニ歸シ、往昔人民ハ法ヲ守リ律ニ從フヲ以テ天

下ニ稱セラレ、判官ハ公正ニシテ明斷ナルヲ以テ其名ヲ得タリシ埃及ノ美名ハ、其跡ヲ留メザラントスルニ至レリ。

從來ノ裁判法

蓋シ從來埃及裁判法ノ構成ハ大別シテ四ト爲ス、曰ク王庭裁判、是レ王城中ニ設クルモノニシテ、他ノ二大法庭ノ權限外ニ生ジタル事ヲ王及ビ高等法官ノ判決スル所ナリ。曰ク上等裁判所、是レ市府町村裁判所ノ上ニ位スルモノニシテ、權力甚ク重シ、昔時ハ土耳其ヨリ法官ヲ派出シ、年俸二萬金ヲ給シタレドモ、輒近ハ埃及王ヨリ法律博士ニ命ジテ此任ニ當ラシムルエト、セリ。曰ク最高裁判所、是レ上等裁判所ノ決シ

新裁判法

難キ難題ヲ決スル所ナリ。此三大裁判ノ外ニハ唯市府町村ニ始審裁判所アルノミナリシガ、外交上ヨリ埃及固有ノ裁判法外ニ種々ノ裁判法ヲ顯出セリ。第一民事裁判法ナリ、此ハ外交ノ必用ト司法ノ弊風ヲ矯正セントシテ設ケタルモノニテ、殊ニ埃及人中西教ニ改宗セシ二十餘萬ノ人民ハ全ク經典ノミヲ本トシテ裁判シ難キ事情アルヨリ、設ケタルナリ、蓋純然タル埃及ノ裁判所ニ特別ニ此法ヲ適用スル定メニテ、始審裁判所ニハ政府ノ任用シタル歐洲判官一人ヲ入レ、控訴裁判所ニハ政府ノ任用シタル歐洲判官四名ヲ入レ、國人判官多數ヲ以テ組織スルノ制ニ

テ、宗教ノ異同ヲ問ハズ、此ノ裁判ニ服セザル可カラ
ザルナリ。

第二領事裁判ナリ、此ノ制度ハ遠ク十六世紀土耳其
帝國ガ威權ノ盛大ナリシトキ、建國、歴史、宗教、制度、
文物、風俗、人情ノ全ク相異ナル人種ヲ内地ニ雜居セ
シメ、一法律ノ下ニ支配スルトキハ、假令一政府ガ公平
無私ノ裁判ヲ下スモ、他ノ政府ハ全ク不公平偏私ノ裁
決ナリトノ感觸ヲ生ズベキハ勢ノ免レザル所、且歐
人ノ金錢ニ多慾ナルハ、東洋人ノ比ニ非ズ、彼レ是レ
ノ關係ヨリ常ノ感情ヲ傷ケ、又紛雜ヲ避クルガ爲メ
ニ、時ノ便宜ニ從ヒ、土政府ガ各國人ハ各政府ノ裁判

ノ下ニ服從セシムベシトノ意ヲ以テ制定シタルモノ
ナリ、當時ハ揚々得色アリテ、毫モ國權ヲ毀傷セシ跡
ナク、又外人ニ劫迫セラレシ事實モナシ、是レ則チ今
日ノ所謂治外法權ト稱スル特別ノ條約ヲ萬國公法ニ
留メタル初メニシテ埃及ノ領事裁判モ亦是レヨリ發
シタルナリ。蓋シ弱者ガ強者ノ爲メニ壓制セララル、
ハ現社會ニ免ル、能ハザル勢ナレバ、往時土耳其政
府ノ強盛ナル時代ニハ治外法權ノ爲メニ外人ハ困苦
嗟歎セシモ、今ハ治外法權ノ爲メニ内人が歎息泣嗟
スルニ至レリ、主客ノ變換國勢ノ隆替ニ關スル此ノ
如ク其レ著シ。

領事裁判ノ弊害

故ニ埃及ノ領事裁判モ、東洋人が常ニ見聞スル如ク、往々云フニ忍ビザル偏私ノ裁決アルハ、世人ノ既ニ識認セル所ナリ。且其性質ハ殆ンド終審ノ判決ノ如シ、訴訴ハ海外諸國ニ赴カザル可カラザルヲ以テ、實際上告スルモノナシ。大英國百科字典ニ曰ク、埃及領事裁判ニ大ナル惡弊アリテ、内外人交渉裁判事件ニハ、内人十中ノ九マデハ敗訴セリト、又其一班ヲ見ルベシ。

混合裁判

第三混合裁判所ナリ。初メ威斯明流教育ヲ佛京ニ受ケ、後、佛ノ法律家イシビニユツノ講義ヲ聽キ、粗ホ法理ニ通セシガ、顧ミテ自國ノ法律ノ歐洲法理ト背反シ、且

ツ昔年ヨリノ積弊容易ニ洗ヒ難キヲ憂ヘ、之ニ加フルニ、洲越運河企業以來、外人トノ交渉繁ク訴、訟事件月ニ多ク、而シテ領事裁判ノ判決ニテ自國ノ敗訴ニ歸スルモノ十中八九ニアルヲ慨シ、司法ノ改革ニ意ヲ注ギ、屢々領事裁判所廢止ノ事ヲ謀レドモ、歐米人ハ埃及國有ノ法律ニ服従スルコトヲ不安心トシテ拒ミ、且ツ埃及判官ノ乏シキ能力ニテ歐米人ヲ裁判スルノ到底及ブ可カラザルトノ言ヲ以テ應ゼザリシカバ。歐風ニ心醉スル威斯明流ハ己ムヲ得ズ急ニ五法典ヲ拿破倫法典ニ取り以テ此混合裁判法ヲ制定ス。一千八百六十七年、始メテ乳婆留侯ニ命ジ、委スルニ

各國委員會議

條約改正委員長ヲ以テシ、各國委員會ヲ巴理ニ開カシメタリ。此舉ハ後來領事裁判ノ牽束ヲ解カンガ爲メノ政策ニシテ、其志ヤ稱贊スベキモ、惜イカナ、成功ヲ貪ルノ速ナルヨリ、歩々外人ニ譲リ、遂ニ實行シ難キ歐風ノ法律ヲ編纂シ、加之ナラズ、建國ノ大義ニ違背シ、外人ヲ法官ニ任用シ、内治干涉ノ端ヲ開キ、爲メニ無限ナル國王ノ大權ヲ毀損シ、且領事裁判所ヲ全廢スルユト能ハズシテ、後來悲歎スベキノ結果ヲ來セリ。此會議ニ佛國政府ハ、先ツ異議ヲ唱ヘテ之ヲ容レズ、唯英國ハ贊成ノ意ヲ表シ、スダキヤ須端禮侯ハ一書ヲ裁シテ埃及政府ニ答ヘテ曰ク現行ノ裁判制度ハ内外

乳婆留侯ノ決行

與ニ利セザル所ナルヲ以テ、今回提出ノ改革案ハ我が政府ノ喜テ贊成スル所ナリ、且領事裁判ハ貴國ノ体面ヲ損シ、行政上ノ安寧ヲ妨グルコト少カラズ、又敢テ我國民ニ利スル所ナキヲ以テ之ヲ撤去スルハ我が政府ノ望ム所ナリト。是ニ於テ他ノ諸國皆英國ニ倣フテ同意ヲ表セリ。唯佛國ノ外、土耳其帝ハ、其特權ヲ損ズルコトアルヲ以テ、承認ヲ拒ミ、又國內ノ人民ハ、徒ニ歐洲法律ヲ模擬スルモ、習慣ニ逆ヒ、國俗ニ背キ、繁雜ノ弊ニ堪ヘズ、且ウ教法ト兩立シ難キヲ以テ大ニ之ヲ非難シタリ。然レドモ乳婆留侯ハ西教ニ改宗シ、頗ル歐化主義ノ人ナルヲ以テ、自國ノ觀念

新裁判所ヲ設ク

ニ薄ク、威力ヲ以テ強剛ナル人民ノ團結ヲ解散セシメ、更ニ王命ニ抗スルモノアラバ國中ニ在ル幾多ノ團體ヲ撲滅スベキヲ告ゲ、全ク非議者ヲ壓シ、一千八百七十二年ニ法律ヲ改定シ、一千八百七十五年一月ヲ以テ新裁判所ヲ設立スルノ事ニ決セリ。然レドモ土佛兩政府猶ホ未ダ肯セザル所アルヲ以テ、同年ニ其設立ヲ見ル能ハズ、翌年二月ニ至リ始メテ開庭式ヲ舉グ。其數總ベテ四箇處ニシテ、海樓、歷山、末曾亞^{マツン}ノ三處ニ始審裁判所ヲ設ケ、更ニ歷山ニ控訴院ヲ置ケリ、此四處ノ新裁判所ヲ稱シテ混合裁判所ト稱ス。蓋シ混合裁判ノ組織ハ、埃及人ト歐米人トヲ以テ其判

混合裁判ノ組織

官トスルモノニシテ、其規定ハ歐米諸大國ヨリ指名推選シタル人員ニ就イテ埃及王ノ任命スルコト、歐米人ハ必ズ埃及人ヨリモ多數ナルコト、其權限ハ真成ノ獨立ニシテ其部内ヲ處理スルニ當リ、毫モ他ノ掣肘シ干渉スルコトヲ得ザルコト、外人ト交渉スル事件ハ埃及王及ビ王族ニ論ナク、此ノ混合裁判所ノ下ニ立チ裁決ニ服セザルヲ得ザルコト等ナリ。後日此混合裁判所ハ威斯明流ヲ裁決シ、國王ハ神聖ニシテ侵ス可カラズトノ立國ノ大義ヲ蹂躪シテ顧ミズ、遂ニ王ヲシテ他國ニ流寓セシムルニ至レリ。國權主權ノ始メニ慎マザル可カラザル此ノ如ク其レ重シ。又

混合裁判所ノ定員

其裁判所ニ使用スル言語文字ハ埃及語、佛語及ヒ以
 太利語ノ數種トス。
 海峽始審裁判所ノ定員ハ十一人ニシテ、内七人ハ外
 國人、四人ハ内國人トス。歷山始審裁判廳ハ二十人ノ
 定員ニシテ、外人十四人、内人六人。末曾亞始審裁判
 廳ハ定員七名ニシテ、外人四名、内人三名トス。又歷
 山控訴院ハ十一人ノ定員ニシテ、外人七名、内人四名
 トス。
 各法廳ノ長官ハ毎年法官中ヨリ選舉スル所ニシテ、
 悉ク歐人其地位ヲ占有セリ。
 法官ハ終身官ニシテ全ク行政部ト相分離セリ、又法

法廳ノ長官

法官

庭ハ都ベテ公開ニシテ傍聽ヲ許ス。

又此ノ混合裁判所ニ檢事局アリ、王ガ任命シタル外
 人ヲ以テ其局長トナス。

混合裁判ノ弊

領事裁判ノ弊害タル素ヨリ論ヲ俟タズ、然レドモ混
 合裁判ノ弊害アルハ殆ンド此ニ優ルモノアリ、加之
 往々内治干涉ノ端ヲ開キ、且ツ夫ノ裁判權ノ大ナル
 國王モ亦其中ニ伏從セザル可カラザルニ至リテハ、
 實ニ其甚ダシキモノニシテ、國王ハ最上神聖ナルモ
 ノナリトノ憲法中ノ格言ハ、此制定ノ爲ニ消滅セザ
 ルヲ得ザルナリ、況ヤ此裁判ノ公平ナラズシテ、領事
 裁判ト甚々相違カラザルノ行爲アルヲヤ。宰相利亞

圖嘗テ英ノ名士ニ告ゲテ曰ク、外人ガ憑據ナキ虛妄ノ要求モ、混合裁判所及ビ強國政府ノ強迫ニヨリ、我が國民ノ負債ニ歸シタルモノ殆ト一億萬弗ニ上レリト。真ニ長歎ヲ發セザルヲ得ザルナリ。

混合裁判法ハ元ト五年間ノ實驗ヲ積ミ、而ル後相協議シテ更ニ必用ナルトキハ、年月ヲ延長繼續スルノ條約ナリシガ、歐人ハ埃及法官ノ不完全ヲ口實トシテ、一千八百八十一年ノ期限ヲ一年延期シ、又二年ヲ延期シ、又更ニ五年ヲ延期シタリ。蓋シ歐人ノ意素ヨリ混合裁判所ヲ繼續セントシ、又領事裁判所ヲ廢止スルノ意ナキヨリ、種々ノ故障ヲ提出シ、遂ニ殆ト無期限ノ制トナサントスルナリ。而シテ此裁判ヲ設クルガ爲ニ、敢テ領事裁判及ビ地方裁判所ヲ廢セシニアラザルナリ。

麻魯提男ガ曰ク、混合裁判ノ判官ハ概テ皆法律ニ明カナラザル者ニシテ、其歐人ニ在リテモ真成ノ法律家ナク、殊ニ埃及判官ノ如キハ、歐洲法律上ノ知識極メテ淺薄ニシテ、歐人ト角立シテ法理ヲ辨論スルガ如キハ、到底之ヲ望ムベカラズ。混合控訴院判事歐人嘗テ語りテ曰ク、余ガ同僚タル埃及判事中未ダ裁判方法ヲ瞭解シタル者アラズ、是レ法律思想ハ亞刺比亞人種ニ適セザルニ因ルモノニシテ、適當ノ法官ヲ埃

及人中ニ見ルハ、次世紀ニ待タザルヲ得ズト、而シテ
歐人ノ判官ハ如何ト謂フニ、是レ亦決シテ良判官ニ
アラズ、博識有徳ノ士ハ、遠ク異邦ニ来ルヲ欲セズ、又
各國內閣員ノ其人ヲ撰ブヤ、唯其知人故舊ヲ救ハン
トスルニ出ヅルニ過ギザルヲ以テ、遂ニ此土ニ来ル
モノハ、職ヲ失ヒ本國ニ生活ヲ營ム能ハザル者タル
ニ止マルノミト。

控訴院長ノ上表

又一千八百七十八年六月十四日登山控訴院長羅邊奈
ガ四名ノ評定官ヲ免センユトヲ請フノ議ニ曰ク、本
院歐人七名、其三名ハ判事、四名ハ評定官ナリ、其議
定ハ常ニ法律ニ通ゼザル無學者ノ多數ニ決スルモノ

ナリ、今ニシテ改メズンバ遂ニ公正ノ判決ヲ望ム可
カラズト。

混合裁判所ノ實狀

又英人其混合裁判傍聴ノ記事アリ、曰ク、混合裁判所
ニ於テ辨舌壯快ナル佛ノ法官ガ、眼鏡ヲ手ニシ兩肩
ヲ揚ゲ、單一ノ理論ヨリ滔々持説ヲ主張シテ坐ニ就
クヤ、長ケ高キ同僚ノ英人ハ、奇怪ナル佛語ニテ、理
論ハ實際ニ行ハレ難キ所以ヲ説キテ異議ヲ發シ、獨
乙人ハ又起立シテ、自國流ヲ反覆長ク演説シ、互ニ駁
撃難問シテ、屹然相下ラズ、然ルニ此ニ憫笑ニ堪ヘザ
ルハ、其背後ニ坐スル埃及ノ法官ナリ、稍微笑ヲ含ミ、
黙々トシテ英佛人ノ爭論ヲ聽キ、時ニ欠伸ヲ發シ、造

物ハ何が故ニ此ノ如キ口舌ヲ弄シ爭論ヲ好ミ些々タル不満ニ假借ナク憤怒シテ自ラ我身ヲ勞スル奇人種ヲ生シタルヤ、優游自樂一日ノ安ヲ得レバ足ルノミト思ヘルガ如キ顔色アルヲ見ル云々ト。

埃及大臣ノ盡力

然レドモ裁判ノ改良ニ就イテ、埃及大臣ノ外交ニ力ヲ盡シタルノ功ハ永ク没スベカラズ、乳婆留ノ如キ、清流夫ノ如キ、利亞圖ノ如キ、實ニ稱スルニ足ルベシ。殊ニ清流夫ノ如キ曾テ外交官ト激論シテ曰ク、片紙ノ布告以テ容易ニ律令ヲ變更スベシ、然レドモ正當ノ處ニ向ヒ、正當ノ人ヲ得、數百年來專制政治ノ下ニ馴致シタル慣習ヲ改正セント欲セバ、必ズヤ數多ノ

歲月ヲ要セザルヲ得ズト。其志ノ堅キヲ見ルベシ。利亞圖モ亦曰ク、法律ヲ設クレバ、必ズ内外人ヲ問ハズ、各人同一ニ遵奉スルノ法タラザル可カラズ、歐人獨リ特別ノ裁判ヲ受クルノ間ハ、未ダ法律上公正ノ語ヲ用フ可カラズ、余ハ外人ノ歸化ヲ欲スルモノナリ、又外人ヲ厚遇スルニ於テ敢テ人後ニ立ツモノニアラズ、然レドモ是レ都ベテ外人ヲシテ我が法律ニ從ハシメント欲スルニ因ルノミ、若シ夫レ一國內更ニ一國ヲ構成スルニ盡カスルガ如キアラバ、余ハ真ニ報國心ニ歛クル所無キヲ得ザルナリト。

混合裁判権力ノ擴張

一千八百八十四年ニ至リ、混合裁判ノ権力ヲ擴張シ、

埃及人ト外人トノ刑事モ亦混合裁判所ニ於テ判決ス
ルコト、ナル。其手續ハ凡ベテ佛國法典ニ據ルベキ
モノトス。而シテ其裁判ニハ埃及判事ノ外ニ、十人ノ
白耳義人、二人ノ和蘭人、一人ノ英國人ヲ置ク。

笞杖ノ刑

笞杖ハ埃及古來ノ刑罰ニシテ、宛モ歐米ノ暗獄ニ異
ナラズ、違式中ノ一部トシテ用ヒタリシガ、新裁判法
ノ實施ト同時ニ、之ヲ全廢セリ。是レ英國ノ迫ル所己
ムヲ得テ出ヅルモノニシテ、英國ハ埃及ガ數十
世ノ間、因襲慣用シタル刑罰ヲ舉ゲテ、即時ニ廢棄ス
ベシトノ議案ヲ内務大臣ニ提出シ、之ニ代フルノ適
法ヲ求ムルノ猶豫ヲ與ヘズ、終ニ其議ヲ斷行セシメ

タルナリ。然レドモ笞杖ヲ廢シタルハ、唯表面上ニ過
ギズ、實ハ之ヲ用フルコト更ニ昔時ト異ナルコトナ
シ。内務次官嘗テ一縣知事ノ上問ニ答ヘテ曰ク、是下
若シ縣知事ノ資格ヲ以テ笞杖ハ廢棄シタリヤ否ト問
ハ、余ハ廢棄シタリト答ヘサルヲ得ズ、然レドモ私
交上ヨリ問ハ、余ハ列ニ適當ナル新法ノ發布セザ
ル間ハ、笞杖ノ猶ホ効力ヲ有セザルベカラザルヲ以
テ答ラベシ、今夫レ實ニ笞杖ヲ廢セバ、人々肆恣ニ流
レ、國內忽チ紛亂ニ陥リ、隨テ租稅ノ額ヲ減シ、國庫
ノ缺乏ヲ告グルニ至ルコト必セリト。

法典編纂ノ、佛典ニ籍リシヨリ、佛國風ノ理論ニ走ル

ノ風ヲ采シ、而シテ國情、風俗、習慣ヲ顧ミズ、唯佛國風ヲ誘入セント務メタリ。是ヲ以テ其民法、商法、治罪法、ノ如キ、一見スレバ實ニ歐風ノ法理ニ適シ、完全ナルガ如キモ、國民ニ不適當ナルヨリ、實施ノ期ニ到ラズシテ法律改正ハ有名無實ニ陷レリ、英人其其不可ナルヲ見、埃及當路ノ人ニ勸告シテ曰ク、佛國法典ヲ學ブハ寧ロ印度ニ施行スル英國ノ法典ヲ學ビ、之ヲ酌量シテ、以テ實施スルノ便且利ナルニ如カズト。

怠夫林侯ノ論

英國ノ名士怠夫林侯曰ク、埃及政府ハ名譽上ヨリ萬國ニ冠絶セル裁判法ヲ制定シテ自國ノ法庭ヲ更革セント欲シ、其民法、商法、船律等ヲ改正セリ。其法律極メ

テ完全ナレドモ、酷ダ佛法ヲ模擬スルニ過ギテ、煩雜細腔、之ヲ實行セント欲セバ莫大ノ費用ヲ要セザルヲ得ズ、乃チ埃及ノ如キ農ヲ以テ本トスル邦國ニ在リテハ、行フベキモノニアラズ、宜ク之ヲ簡單省略シテ、其國情、習慣、風俗ニ適當セシメザル可カラズト。

財政紛亂ノ原因

第十二

財政ノ紛亂。

洲越運河ハ、世界ノ商業ニ向テ非常ノ繁盛ヲ招キ、歐洲東洋ノ貿易ニ莫大ノ利益ヲ與ヘタリ。然レドモ埃及國ヲシテ負債ノ淵ニ沈淪シ、更ニ益スル所ナキノミナラズ、衰弱疲弊復タ殆ト恢復スル能ハサルニ至ラシメタルモノハ實ニ此洲越運河ニ基カズンバアラザルナリ。

埃及ハ歐亞ノ管鍵ニ當リ、地勢最モ雄勝ニシテ、且甚々物産ニ富ムヲ以テ、常ニ歐洲強國ノ目ヲ注ギ延ヲ垂ル、所ナリシガ、亞馬斯ノ世ヲ終ルマデハ財政整

濟度ノ時

理シ、國庫常ニ餘裕アリシヲ以テ、遂ニ乘ズルノ際ヲ得ズ、而ルニ濟度ノ位ニ即クニ至リ、華侈豪華之レ務メ、幾ナラザルニ國庫ハ忽チ空乏ヲ告ケ、而シテ時ニ運河事業ノ議ヲ容レタルヲ以テ乍チ資本ニ不足ヲ生シ、數千萬弗ノ外債ヲ募ラザル可カラザルニ至レリ。是レ歐洲強國ガ多年熱望シタル時機ヲ開キタルモノニシテ、其國家財政ノ大紛亂ハ、實ニ此外債ニ根源スルモノト謂フベシ。

威士明流ノ時歐洲ノ金融

濟度死シ、威士明流其大業ノ後ヲ承ケ、巨萬ノ資金ヲ得ルニ苦ミタル時ハ、則チ是レ歐洲諸國ガ金融停滯シテ資本家ハ金ヲ投入スルニ道ヲキヲ憂ヘタル時ナリ。即チ諸器械ノ發明アリテヨリ以來、工業頓ニ振起シ、物品ノ製造急ニ盛ニ、而シテ需用者ハ依然多カラザルヲ以テ、資金ヲ用ユ可キノ所ナク、空ク庫中ニ閉鎖セルニ止マルノミ。是ニ於テ歐洲ノ投機師ハ以爲ラク此ヲ以テ彼ニ投ゼバ其利タル鮮少ナラズト、乃チ濟度、威士明流ガ歐洲ニ心醉セルヲ奇貨トシ、自國ノ強盛ヲ頼ミ、埃及ノ微弱ヲ利トシ、一千八百六十二年ニ一千八百五十萬弗ヲ埃及王ニ貸シ與ヘ、又一千八百六十四年ニ二千八百五十二萬弗ヲ貸シタリ、此ニ口ハ與ニ甚ダ高利ニシテ、周旋料雜費ト稱シテ彼ノ投機師輩ニ減殺セラレ、正實埃及政府ニ入りタルモ

一千八百六十二年ノ外債

一千八百六十四年ノ外債

ノハ第一次一千三百二十萬弗、第二次二千四百三十
二萬弗ニ過ギザリキ。而シテ此ノ負債ハ建國ノ体面
ヨリ公私混合負債ノ觀アリ。

小貧國ニ急ニ巨額ノ資金ノ入ルトキハ、頓ニ繁盛ノ
狀ヲ呈スルハ、元ヨリ理ノ應ニ然ルベキ所ナリ、故ニ
埃及國ニ在リテモ、亦俄ニ商工業ノ昌榮ヲ来シ、輸出
額ノ如キモ、一時ノ變象ヨリ大ニ増加シタルヲ以テ、
威斯明流ハ大ニ狂喜シ、全ク外債ノ効ナリト妄信シ、
更ニ一千八百六十五年及六十六年ニ英佛二都ヨリ三
千餘萬弗ヲ募リ、次イテ六十八年ニ五千九百四十五
萬弗ヲ借り入ル、皆是非常ノ高利ニシテ、其周旋費ニ

一千八百六十五六年
ノ外債
同六十八年ノ外債

減セラレタル額實ニ數千萬ニ上レリ。

土政府外債ヲ禁ス

土其政府ハ埃及ノ外債漸ク加ハリ、財政日ニ困難
ニ赴クヲ見テ、大ニ後日ノ事ヲ憂ヘ、嚴命ヲ傳ヘテ埃
及ノ國稅ハ埃及真成ノ費用ニアラザレバ消費スルユ
トヲ許サズ、爾今以後土國政府ノ許可ヲ經ズシテ外
債ヲ起スユトヲ禁ズ。時ニ内ニハ種々ノ大事業ヲ企
テ、資金ヲ要シ、外ニハ外國資本家及投機者百方術ヲ
盡シ、威斯明流ヲ惑ハシ、又其周圍ニ煽集スル顧問官
ノ歐人ハ、邪説ヲ以テ威斯明流ニ説キテ曰ク、經濟ノ
真理ハ需用供給ニ基クモノニシテ、必要ナル所ニハ
資金集マリ、必要ナラザル所ニハ決シテ集マラザル

顧問官ノ邪説

モノナリ、今ヤ歐洲ノ市場ハ資金充満シテ用フルニ
 處ナキノ時ニシテ、而シテ埃及ハ工業ノ將ニ振起セ
 シトスル資金ノ最モ必要ナル時ナリ、故ニ歐洲ノ資
 金埃及ニ来ルハ、是レ經濟上需用供給ノ正理ニ從フ
 モノナリ、且多少ノ國債増加スルモ、爲メニ工業商業
 振興シテ、物産倍侈シ、國力發達スルヲ得バ、是レ決
 シテ憂フベキコトニアラズ、故ニ歐洲諸國ノ如キ其
 富強文明ハ却テ國債ノ多少ニ依リテ之ヲトセリ。蓋シ
 物品ヲ購フ必ズ相當ノ價ヲ出サザルベカラズ、今日
 國債ヲ募ルモノハ則チ是レ國力ヲ發達スベキ原品ヲ
 購フノ價ナリ。且ツ天下ノ事最モ時機ヲ重シトス、今

日ハ則工業商業ヲ興スベキノ時機ナリ、若シ外債ヲ
 憂ヘ資金缺乏ノ故ヲ以テ此振起スベキノ工業ヲ振
 起スルコトヲ謀ラズ、歐洲市場ノ金融勢ヲ變ジ、埃及
 ノ募集ニ應ゼサルニ至ラバ、是レ千歳一遇ノ好時機
 ヲ失フモノナリト。又曰ク、土國政府ノ命令ハ埃及政
 府ノ國債ヲ興スヲ禁シタルモノニシテ、埃及王ノ私
 債ヲ禁シタルモノニアラズ、若シ王室所有ノ土地ヲ
 抵當トシテ國債ヲ起サバ、是レ一家ノ私債ノミ、土政
 府豈關涉スルヲ得ンヤト。威斯明流ハ則チ此說ヲ善
 シトシ、土國駐劄ノ英國大使、埃及駐劄ノ英國外交官
 ノ周旋ヲ以テ、一千八百七十年新國債三千五百七十

債
 一千八百七十年ノ外

一萬五千弗ヲ英國ニ借り入ル、是亦非常ノ高利ニシテ、先負債ノ利及ビ今回ノ周旋費合計一千零七十一萬五千弗ヲ引キ去ラレテ、真ニ埃及ニ入りタルハ二千五百萬弗ニ過ギザリキ。

土國政府ハ其命令ニ反キ、又新國債ヲ起シタルヲ怒リ、痛ク埃及政府ヲ責メ、且英國ニ書ヲ送リテ曰ク、埃及ノ新負債ハ土帝ノ詔ニ反シタルモノニシテ、其抵當ハ埃及王ノ所有ナレドモ、間接ニ土耳其帝國ノ租稅ニ關スルモノナレバ、國法ニ反シタルノ負債ナリト。然レドモ英國ハ其書ヲ受納シタルノミ、遂ニ一言ノ答ヲナサザリキ。

土國政府ノ譴責

英國ノ舉動

一千八百七十三年ノ大賄賂

貪婪ナル英佛ノ資金家及投機者ハ、猶未ダ以テ足レリトセズ、更ニ大ニ資金ヲ投入シテ壟斷ノ利ヲ私セント欲シ、乃チ資金家ヲ會シテ、政府及人民ノ要スベキ金額ハ國家ノ最モ必要トスルモノナレバ、埃及政府ハ必ズ借り入レザル可カラズト勸ムルノ策ヲ議シ、嚮日ノ勅令ヲ取消サシメント欲シ、一千八百七十三年六月四日四百五十萬弗ノ賄賂ヲ土帝及二三ノ大臣及官人ニ贈呈ス、是レ實ニ著名ナル賄賂ニシテ、空前絶後ノ大賄賂ト稱スベシ。是ニ於テ土帝ハ同臭味ノモノニ誘惑セラレ、異議ノ大臣ニ協議セズ、直ニ一封ノ勅書ヲ與ヘテ、敢ヘテ前論ヲ取り消シタリ。土國正議

土帝前勅ヲ取消ス

ノ大臣之ヲ聞キ、直ニ英國大使ニ向ヒ、彼ノ勅令ハ未
 ダ主務大臣ノ承認ヲ經ザルモノナレバ、効力ヲ有セ
 ザルモノナルコトヲ告グ。而ルニ大使ハ之ヲ斥ケテ
 曰ク、余ハ他國ノ利ヲ計ルノ責メニ任セズ、英國ノ利
 ヲ計ルヲ以テ其任トスルモノナリ、今英國ノ利トナ
 ルベキ貴國皇帝陛下ノ真正ナル勅書ヲ得タレバ、實
 ニ確乎不拔ノモノト奉ズル所ニシテ、敢テ貴論ヲ謝
 絶セザルヲ得ズト。

爾後資金家投機者が賄賂ノ効ヲ以テ埃及政府ニ三億
 六千萬弗ノ新國債ヲ負擔セシムルニ至レリ。殊ニ其
 貸借ノ約束ノ如キハ、實ニ不法ノ甚ダシキモノニシ

三億六千萬ノ外債

テ、賣入ハ二億二千七百五十萬弗ニ過ギズ、其餘ハ先
 例ノ如ク、皆先負債ノ利、及ビ報酬ニ引キ去ラレタリ。
 當時埃及駐在ノ英佛外交官及埃及高貴ノ官吏ニシテ、
 此報酬ノ配分ヲ受ケザルモノハ清廉潔白ノ人物ニア
 ラザレバ、則チ偏人痴人ナリキ。且此實収入ノ少キニ
 拘ハラズ、其利ハ非常ニ高度ニシテ、高キハ二割六分
 半、低キモ一割二分半ヲ下ルモノナク、加之ナラズ、其
 中四千五百萬弗ハ正金ヲ以テ埃及政府ニ與ヘズシテ、
 埃及政府ガ發行シタル當時半價ニ過ギザル公債證書
 ヲ買ヒ集メ、而シテ之ヲ額面ニ計算シテ與ヘタリ、其
 所置ノ專横ナル實ニ謂フニ忍ビザルナリ。

一千八百七十四年ノ
内債

一千八百七十四年埃及政府ハ内國債ヲ起セリ、非常ニ強迫ノ手段ヲ用ヒタレドモ、僅ニ一千萬弗ヲ得タルニ過ギズ、又大藏省券ノ如キモ非常ナル低廉ヲ以テ、漸ク發行スルヲ得タリ。

嗚呼埃及ノ如キ貧弱國ニシテ、此ノ如キ莫大ノ國債ヲ負ヒ、能ク其困難ニ堪フルコトヲ得ベキカ、既ニ已ニ此ニ至リテハ、記者モ亦筆ヲ板シテ長大息セザルヲ得ザルナリ。

一千八百七十五年

一千八百七十五年ノ夏ニ至リテハ財政亦如何トモ爲ス可カラザルノ困難ニ陥リ、巨額ノ外國債ヲ負ヒ、又漸ク加ハルノ利子ヲ拂ハント欲セバ、財貨ノ出ツベ

英人計侮ヲ招ク

キ途ナク、拂ハザレバ債主ノ逼迫愈々甚ダシク、真ニ動ク可カラザルニ瀕セリ。是ニ於テ英國ノ外交官ハ威斯明流ニ迫リテ曰ク、時勢既ニ此ニ至ル、又如何トモス可カラズ、今日ノ謀ヲ爲スモノハ、唯財政ニ長スル歐人ヲ聘シテ以テ顧問官トナシ、其意見ヲ問フテ而シテ處理スルアルニ若カズト。威斯明流此議ヲ容レ、英國議員中理財ニ有名ナル計侮^{グレイ}ヲ招聘ス。計侮ノ埃及ニ來ルヤ、直ニ財政ノ調査ニ從事セリ。而ルニ其紛亂實ニ甚ダシク、外國債ノ外、無抵當ノ國債九千萬弗アリテ、隔年ニ利息ヲ拂ハザル可カラザルノ約アルヨリ、高利ヲ以テ債ヲ他ニ求め、以テ僅ニ其約ヲ全ウ

シ、其他國內ノ租税ハ悉ク外國債主ニ抵當ニ供セザルハナシ。因テ計侮モ亦大ニ驚愕セリ。當時其英國政府ニ報告セル書中ニ曰ク、一千八百七十三年ノ國債ニシテ、埃及國內ノ財源ハ涸渴シ盡キタリ、既ニ一億七千四百四十九萬弗ハ此十年間ノ利息トシテ外國債主ニ入レタレドモ、今ヤ利ハ利ヲ生ジテ漸ク相加ハリ、負債ハ更ニ減セザルノミナラズ、却テ元債ニ倍スルニ至レリ、而シテ財源如何ヲ顧ミレバ、人民ヲシテ租税ヲ前納セシメタル處少カラズ、其他勸諭シテ獻金セシメタルモノ多ク、今ハ又如何トモスベキナキニ至レリト。

當時國債ノ利子トシテ毎歲出サザル可カラザルモノ二千八百五十萬弗ナリ、而シテ全國ノ租税其他ノ收入ヲ合算スレバ、四千二百五十萬弗ニ過ギザルヲ以テ、政府ハ租税一時上納法ト稱スル新法律ヲ公布セリ。此法ハ六年分ノ地稅ヲ前納スル者ハ、永久地稅ヲ半減スベシト謂フニ在リ、其豫算ニ據レバ、一億四千萬弗ノ新收入ヲ得ベシト。然レドモ是レ實ニ謀ノ最モ拙ナルモノニシテ、後日ヲ慮ラズ、徒ニ目前ノ急ヲ救フニ過ギズシテ、之ガ爲メニ後日國家ノ不利ヲ生ズルハ火ヲ觀ルヨリモ猶ホ明ナリ、果セル哉、二千一百五十萬弗ノ收入ハ千八百八十六年ニ至リテ千三百

計侮ノ救濟策

萬弗ニ減却セリ。
 埃及ノ困難既ニ此ニ至レリ、而シテ計侮ハ果シテ如何ナル良策ヲ執リテ之ヲ救ハントシタルヤ、英佛ニ勸メ、彼ノ非常ノ高利ヲ減シ、不法ノ約束ヲ改メシメントカメタルカ、他ノ妙策ヲ運ラシ、埃及人民ヲシテ新財源ヲ開カシメタルカ、計侮ハ實ニ其計此ニ出テザルナリ。唯債主ニ向テ、少時ノ延期ヲ諾セシメタルニ過ギズシテ、却テ後來埃及國ニ不利ナル埃及財政管理局ナルモノヲ建立シ、英佛人ヲシテ埃及ノ財政ヲ監督セシムルニキコトヲ威斯明流ニ劫迫シ、英佛ノ債主及ビ外交官モ亦同ジク此事ヲ以テ迫リ、遂ニ英

外人財政管理局ヲ設ク

一千八百七十六年

空選、骨新、讓邊流等
 全權委員トナル

佛ノ二國ヨリ全權委員ヲ撰ビ埃及財政管理局ヲ設ケ、事務ヲ執ラシムルコトヲ決セリ。
 一千八百七十六年ノ春^{ウエルトン}空選英ノ全權委員トナリテ埃及ニ来リ、次テ十一月英ノ骨新^{コッペン}納尚^{今ノ出}佛ノ讓邊流^{シロウベル}各其國ノ全權委員トナリテ埃及ニ来ル。然レトモ此時ニ至ルマデ、威斯明流ハ未ダ全ク歐洲ノ全權委員ヲ招クヲ承諾セザリシナリ。而ルニ英佛ノ總領事ハ三人ノ来ルヤ否、王宮ニ至リ、威斯明流ニ告ゲテ曰ク、殿下ノ指命ニ從ヒ、三氏ヲ召集セリ、三氏ハ英佛ノ官吏トナラズ、一私人トシテ埃及ニカヲ盡サント欲スルガ故ニ、余モ亦總領事ノ職分ヲ離レ、一私人ノ交誼上ヨ

リ、殿下ニ此三人ノ大ニ用ユベキヲ勸ムルナリ、自今
 財政上ノ疑問ハ必ズ讓邊流、空遜ノ二人ト協議シテ
 施行スル所アルベシ、又骨新ハ曾テ内閣員ノ一人ナ
 リシ名士ナレバ、殿下ハ顧問ニ備ヘ、事大小トナク諮
 問スル所アレト。大藏大臣征泥駒侯セイデマウハ富豪ニシテ最
 モ勢力アリ、其建議ヲ不可トシ、敢テ管理局ヲ置クヲ
 要セズ、又他國ノ内閣員タリシ人ナルモ、埃及ノ顧問
 官トセザル可カラザルノ義務ナシト固ク拒絶シテ更
 ニ彼ノ説ヲ容レザリキ。是ヨリ互ニ相持シテ對談セ
 ザルモノ十五日、十一月十日ニ至リ、征泥駒侯ハ突然
 拘引セラレ、翌日内閣ノ裁決ヲ以テ、各州ヲ同盟シ、歐

大藏大臣征泥駒侯ノ
 遠流

人ト密約シ、謀反セントスルノ罪アリト認定セラレ、
 即日白河ニ流サル。此刑法ハ死刑ト異ナルコトナキ
 重刑ニシテ、古来白河ニ流サレ生キテ還ルコトヲ得
 タルモノナシト云フ。又世人ノ傳フル所ニ據レバ、内
 閣ノ裁決ニ當リ、一モ征泥駒ノ辨解ヲ容レザリシト
 云フ。抑征泥駒ノ重刑ニ陥リタルモノハ何ゾヤ、實ニ
 其罪アリテ而シテ然ルカ、抑又真ノ冤罪ニシテ他人
 ノ奸策ニ出ツルモノカ、今ヤ内外ノ人皆既ニ推察ス
 ル所ナリ。蓋シ征泥駒ガ拘致セラレテ將ニ判決セラ
 レントスル早朝ニ書シタル英ノ總領事ノ報告書ニ曰
 ク、英佛ノ管理員ハ埃及ノ大藏大臣ト親マザルヲ以

空遜、讓邊流大勢力ヲ得

二箇ノ大藏省

テ、百事極メテ圓活ナル能ハズ、然レドモ大藏大臣ハ日ナラズシテ必ず失敗スルヤ必セリト。是一報ヲ以テ粗之ヲ知ルニ足ルベシ。同月十八日威斯明流ハ空遜、讓邊流二人ノ財政案ヲ容レ、遂ニ二人ヲ歐洲派遣埃及財政管督官ニ任シ、歳入ヲ管督シ、公債利子ノ出納ヲ検査シ、鐵道ヲ管理シ、歷山港ノ關稅ヲ掌ラシム。是ニ於テ、埃及一國ニ二個ノ大藏省アル外觀ヲ呈セリ。又英國政府ハ好意上ヨリ適當ノ顧問官ヲ官選シテ派遣セシム可キヤヲ問ヒタリ、而ルニ英ノ總領事及ビ他ノ二人ハ之ヲ不利トシ、埃及政府ニ勸メテ辭セシメタリ。

メタリ。

一千八百七十七年

英總領事ノ報告

一千八百七十七年一月、政府ハ約ノ如ク公債利子一千百五十萬弗ヲ償還ス、此金ヲ得ルニハ實ニ甚ダシキ困難ナリシコトハ、英總領事ノ報告書ニ明ナリ、曰ク利子ヲシテ約ノ如ク納メシメンニハ、非常ノ困難ニシテ非常ノ盡力ナリキ、地方ニヨリテハ半年前ノ租稅ヲ前納セシメタル處アリ、然レドモ余ガ此盡力ハ、職掌上ヨリセルニアラズ、一私人ノ交誼上ヨリ出テタルノミト。

歐人ヲ増聘ス

管理局ヲ開クガ爲ニ、新ニ歐人數十人ヲ増聘ス、其俸給ハ十七萬五千弗ニシテ、皆埃及政府ヨリ支出スル

債主ノ新要求

モノナリ。
 未ダ幾ナラズシテ、債主ヨリ新要求起ル、即チ英埃銀
 行ヨリ借り入レタル八百萬弗ノ内、英人二千五百ノ
 株主分三百二十萬弗ノ償還ヲ促シタルニ在リ。同七
 月十五日公債利子一千零四十七萬四千八百七十五弗
 ヲ拂ヒ出サツル可カラザルノ期限来ル、埃及國中ノ
 資財ハ既ニ己ニ涸レ盡キテ、今ハ如何トモスルコト
 能ハズ、故ニ威斯明流ハ英佛領事ニ告ゲテ曰ク、今日
 マデノ利子ヲ償還スルガ爲ニ、我政府ハ上納期ニ先
 ダツ九ヶ月、又ハ一年ニ、租税ヲ納メシメ、而シテ僅ニ
 其義務ヲ果スヲ得タリ、今ヤ租税ノ徴スベキナク、財

無用ノ歐人ニ高給ヲ
與フ

貨ノ得ベキナシト。領事答ヘテ曰ク、貴國ノ内情察セ
 ザルニアラズ、然レドモ若シ此要求ヲ承諾セズンバ、
 殿下ハ非常ナル大困厄ニ陥ルコトアルベシト。既ニ
 シテ又密ニ威斯明流ニ詢シテ曰ク、若シ萬己ムナク
 ンバ、一策アリ、株主中最モ強項ナルモノ數人ニ高俸
 ヲ給シ、埃及政府ニ雇入レ、官吏ト爲サバ、彼等能ク
 周旋スル所アルベシト。威斯明流他ニ策ノ出ツベキ
 ナク、遂ニ此議ニ從ヒ、無用ノ歐人數十人ヲ入ル、是
 ニ於テ暫ク請求止ミ、政府モ亦稍安堵ノ思ヒヲナスヲ
 得タリ。而ルニ忽チ又他ノ株主ヨリ要求ノ議ヲ呈出
 セリ、曰ク埃及財政ノ困難ハ深ク察スル所ナリ、然レ

トモ我輩債主ハ負債人ノ困難ナル時、貸金ヲ延期又ハ消滅スベキ義務ナク、受ク可キモノハ遂ニ受ケザル可カラザルナリト。因テ政府ハ又百方究策ヲ運ラシ、遂ニ之ヲ償還セリ、此時爲メニ邦内ノ人民數萬戸ハ、其産ヲ破リ、其職ヲ失ヒ、流浪ノ客トナレリ。英國總領事ガ一千八百七十八年七月十二日ノ報告ニ曰ク、昨日債主ハ一千零三十七萬四千七百五十弗ヲ領収セリ、然レドモ此金ハ埃及政府ガ人民ヲシテ一年後ノ租稅ヲ前納セシメ、又未ダ収獲セザル未穀ヲ前賣セシメタルモノナレバ、其困難實ニ謂フニ堪ヘズ、爲メニ農民ノ産ヲ失ヒ分散シタルモノ幾多ナルヲ知ラズ、

一千八百七十八年英
國總領事ノ報告

唯債主ハ受クベキノ義務アルガ故ニ之ヲ受ケタレドモ、他日此ガ爲ニ多少ノ困難ヲ蒙フルモ亦知ルベカラズト。一千八百七十九年ノ英國議院日記ニ詳カナリ

外人ニ稅ヲ課セント
ス

財政ノ紛亂既ニ極マレリ、威斯明流奮然諸國ノ領事ニ告ゲテ曰ク、今日歐人ノ埃及ニ在ルモノ、殆ド十萬人ヲ超ユ、皆埃及ヨリ利ヲ獲、益ヲ取レリ、而シテ未ダ一錢ノ稅ヲ納メズ、甚シキニ至テハ法ヲ犯シテ密賣ヲ專ラニス、自今至當ノ稅ヲ課シ、而シテ彼ノ密賣ヲ嚴禁セント欲スト。當時英領事ノ報告ニ曰ク、歐人ノ密賣ヲ禁シ、又稅ヲ課スルトキハ此困難ニ陷リタル人民ヲシテ更ニ困難ヲ重子シメザルモ政府ノ歲入ヲ

高ムルコトヲ得ベシト。蓋シ輸入品ノ、税關ヲ脱シテ密賣スルハ實ニ公然タルモノニシテ、密賣船ハ海上ニ碇泊シ、機ヲ見テ横ニ物品ヲ歐人ノ倉庫ニ運送セリ、其一タビ庫中ニ入ルトキハ、埃及官吏ハ之ヲ如何トモスルコト能ハズ、而シテ其密賣物中ニハ禁賣品ノ銃砲等アリテ、更ニ憚ル所ナク公賣セリ。英ノ宇安^{ウエイ}曰ク税關ノ官吏ハ、多クハ土耳其人及ヒ志流加朱亞人ナルヲ以テ、賄賂ノ弊遂ニ此密賣ヲ醸成シタルナリ、埃及人ニ在リテハ最モ慷慨スル所ナリ、他日國民的ノ運動始マリ、歐人ヲシテ租税ヲ収メシムルニ至ラバ、彼ノ困難ナル埃及人ヲシテ少ク其肩ヲ休メシ

ムルコト必セリト。

其後二ヶ月ヲ經テ、威斯明流ハ英佛總領事ニ對シ、必ズ税ヲ外人ニ課シ、又密賣ヲ嚴禁セント欲スルノ意ヲ告ゲ、幸ニ英佛二國ノ力ニ頼リテ斷行センコトヲ托ス。英佛二政府依違答ヘズ、遷延日ヲ送り、遂ニ翌年ノ十二月ニ至リ、英國ハ漸ク其答辭ヲ送りテ曰ク、我政府モ亦敢テ貴國ノ望ミヲ斥クルニアラズ、然レドモ此事ヲ遂グレバ必ズ政治ト財政トヲ全ク改革スベシトノ誓約ヲ先ツ受ケザル可カラズ、且百事混合裁判所ノ判決ニ服従スルトノ承諾ヲ受ケザル可カラズト。要スルニ曖昧糢糊、其意ノ在ル所ヲ量ル能ハザ

ヲシメタルニ過ギザルナリ。

債主歳出入ノ全權ヲ
得ント欲ス

是ヲ以テ彼ノ議モ遂ニ行ハレズ、而シテ財政ハ益窮窘ニ陥リ、消却ノ義務ハ愈々迫リ資途全ク塞リ、如何トモスル能ハザルニ至レリ。因テ實狀ヲ以テ各國ノ債主及ビ領事ニ訴フ。債主等則チ新案ヲ發シテ曰ク、貴國困難ノ狀深ク察シ痛ク憫ム所ナリ、然レドモ吾輩ノ見ル所ヲ以テスレバ、財政ノ整理未ダ至ラザルニ基クガ如シ、從來吾輩歐人ノ管督シタルハ唯貴國ノ歳入ニ過ギズ、更ニ一步ヲ進メ并セテ歳出ヲ管督セシメバ、必ズ調理其宜シキヲ得テ、此困難ヲ免ルベシ、若シ又此ノ如クシテ猶如何トモスル能ハザレバ、

是レ真ニ如何トモスル能ハザルナリ、吾輩更ニ協議シテ適當ノ方法ヲ求ムベシト。是レ一ハ内治ニ深ク干涉シテ財政ノ全權ヲ握リ、一ハ埃及王ノ私有財産ヲ出サシメントノ策ナリ。威斯明流モ今ハ行政全部ニ外人ヲ入ル、ノ最モ不可ナルヲ知り、斷然之ヲ拒絶セリ。而レドモ歐人ハ猶ホ精密ニ内政ヲ調査シ、不急ノ歳出ヲ減セント請フテ止マズ、在朝ノ歐人モ亦相助ケテ政府ニ迫リシカバ、非常ノ困難ニ至リタリ。是レ國民運動ノ感情ヲ強ウシタル一ノ原因ナリ。然レドモ此時ハ猶未ダ運動ヲナスニ至ラズ、運動ノ形蹟ヲ顯ハシタルハ、此ヨリ十八ヶ月後ニ在リ。此時政

官吏ノ俸給ヲ例期ニ
與ヘズ

一千八百七十八年總
領事ノ報告

府八百方術ヲ盡シテ歳入ヲ計レドモ、集ムルコト能
ハズ、遂ニ埃及官吏ノ俸給ヲ例期ニ與ヘザルニ至レ
リ。一千八百七十八年英總領事ノ報告ニ曰ク、政府ノ
金庫ハ全ク空乏トナレリ、將士官吏ハ數月間俸給ヲ
受クルコト能ハズ、其事情實ニ言フニ忍ビズ、一國ノ
人民殆ンド生色アルナシ、到ル處嗷々然不平ヲ訴ヘ
テ曰ク、歐ノ債主及雇人ハ、過分ノ給金ヲ受ケ、而シ
テ本國人民ハ俸給ヲ受クルヲ得ズト、本年ノ埃及人
民ハ其家屋及牛馬ヲ賣リテ上租スルノ慘狀ナリト。

一千八百七十九年英
國議院日記ニ詳ナリ

一千八百七十八年管

又一千八百七十八年管理官ノ報告ニ曰ク、雖江水涸

理官ノ報告

レ、人民飢餓ニ瀕セリ、地稅ノ甚ク高度ナルガ爲ニ、能
ク収メ得ルモノナシ、政府ハ已ムヲ得ズ、十二歳以上
ノ男子ニ課シタル人頭稅ヲ二倍シ、營業稅ヲ三倍セ
リ、其人民ノ究困セル亦深ク怪ムニ足ラザルナリ、而
シテ大藏大臣此時ハ英人
其職ニ在リハ此困難中ニ在リテ、歳入四千
七百七十一萬五千弗ノ中三千七百三十六萬五千弗ヲ
外國債主ノ分トシ、五百萬弗ヲ洲越運河ノ純益及課
稅トシ、殘額僅ニ五百三十五萬弗ヲ以テ埃及一歳ノ
政費ニ供スルコト、セリト。財政此ノ如キヲ以テ、埃
及官吏ハ皆數月ノ間俸給ヲ受クル能ハズ、而シテ雇
歐人ハ依然舊日ト異ナルコトナシ、若シ會遲滯スル

外人大藏省ノ金庫ヲ
取押ユ

アレバ、直ニ混合裁判所ニ訴ヘテ之ヲ要求シ、更ニ其
レヨリ生シタル損害ヲモ政府ニ出サシメ、遂ニ大藏
省ノ金庫取押ノ權ヲ得タリ、然レドモ金庫取押ノ一
事ハ、英國總領事其本國ニ通ジ、本國外務大臣ノ權力
ヲ以テ禁止セシメタリ。

有志概ヲ傳フ

時勢此ノ如キヲ以テ、内國人ノ飢餓ニ至ルモノ少カ
ラズ、因テ有志ノ士ハ大ニ感激シ、檄文ヲ傳ヘテ曰ク、
此國歩艱難人民苦厄ニ沈ムモ、猶ホ且負債ハ償却セ
ザル可カラザルモノナルカト。埃及政府モ今ヤ坐
視スルニ堪ヘズ、乃チ管理官ニ次期ノ利子ノ延期ヲ
談シテ曰ク、若シ許サズンバ國民餓死スルヲ免レズ、

政府利子ノ延期ヲ請
フ

今ヤ我が大藏省ハ金庫ニ一錢ヲ留メズ、而シテ管理
局ノ金庫ハ數千萬金ヲ蓄積セリ、我が言ヲ容ル、モ
亦甚ダ困難ニ陥ルノ憂ナカルベシト。而ルニ管理官
ハ斷然斥ケテ曰ク、貴國ト吾人トハ互ニ義務ヲ盡セ
バ可ナリ、其他ヲ知ラズト。又當時英國内閣ノ閣議ハ、
果シテ如何ナリシカ、唯大宰相佐理須保利侯ガ手筆
ノ書表紙ニ、英女皇ノ政府ハ、債主ト被雇人トノ要求
ハ直ニ埃及政府ヨリ受クベキニ決定セリト在ルノミ
ニシテ甚ダ詳カナラズト雖モ其嚴酷ノ命令ヲ總領事
ニ傳ヘタルユトハ明ナリ。是ヲ以テ總領事ハ埃及政
府ニ迫リ、必ズ負債ハ期限ヲ以テ消却スベシ、已ムナ

クンバ國王ノ私有財産ヲ典却スルモ彼義務ハ全ウセ
 ザル可カラズト嚴談ス。其金額ハ六百萬弗ナリ。威斯
 明流ハ復々英佛領事ニ告ゲテ曰ク、余ハ此國ニ王タ
 リ、乃チ王位ヲ保ツノ資格ナカル可カラズ、又宗教ヲ
 守護スル費用ナカル可カラズ、而シテ今六百萬ノ太
 金ハ、到底及フ能ハザル所ナリト。然レドモ英佛諸政
 府ハ、更ニ之ヲ聽カズ、直ニ答ヘテ曰ク、貴國ノ内政ハ
 我が關與スル所ニアラズ、我が政府ハ我が人民ヲシ
 テ貴國ヨリ受クベキ正當ノモノハ受ケシムベキノ決
 議ヲ爲シタレバ、遂ニ之ヲ受ケシメザル可カラズト。
 是レヨリ後十二日ニシテ、英佛ノ總領事ハ満足ノ巨

英佛領事ノ答

金ヲ受ケ得タルノ電音ヲ本國ニ發スルニ至レリ。其
 埃及政府ノ困難果シテ如何ナリシヤ、實ニ想像スル
 ニ堪ヘタリ。

然レドモ歐洲管理官ハ未ダ埃及歳出ノ權ヲ得ル能ハ
 ザルヲ以テ憾ミトセリ。因テ混合裁判ヲ利用シテ其
 策ヲ運ラサントセリ。然レドモ是亦其望ミヲ達スル
 コト能ハザルヲ以テ、遂ニ王子發箋^{ハツセン}ヲ事ニ托シテ混
 合裁判所ニ召喚シ、誘惑訊究シテ政府歳出入ノ狀況
 ヲ陳述セシメ、其口供ヲ取レリ。是レ蓋シ埃及政府ヲ
 攻撃スルノ材料ニ供セントシタルナリ。

時ニ管理官ハ英佛政府ヨリ埃及ノ歳出ヲモ干渉スベ

歐人王子ノ口供ヲ取
ル

歳出調査委員ヲ置ク

威斯明流高等法院ニ
訴ヘラル

王ノ敗訴

キノ命令ヲ得シカバ、大ニ其力ヲ増シ、彼ノ材料ニ據
リ、且ツ詰リ且ツ迫レリ。威斯明流ハ固ク執リテ容レ
ザルモノニケ月、然レドモ猶迫リテ己マザルヲ以テ、
遂ニ唯歳出ノ状況ヲ調査スルノ委員ヲ任ズ。委員ハ
調査ノ後埃及財政ノ紊亂此ニ至ルモノハ、國王ノ所
置其宜キヲ得ザルニ由レリト爲シ、混合高等法院ニ
告訴セリ。法院ハ素ヨリ歐人ヲ以テ組織スル所ニシ
テ、深ク歐人ト連結セルヲ以テ、直ニ國王ノ敗訴ニ歸
シ、其裁判費用數十萬金ヲ以テ悉ク埃及政府ヨリ支
出セシメタリ、是レ千八百七十八年三月三日ノ事ナ
リ。嗚呼埃及ニシテ強盛ナラシメバ、此不法ノ判決ニ

服シ、空シク歐人ニ屈伏セザルヤ必セリ、而ルニ今唯
々諾々此ノ如シ、慨スルニ堪フ可ケンヤ。

高等法院ノ判決ニヨリテ、埃及ノ歳出入ハ舉ゲテ六
人ノ歐人ニ委任スルコト、ナレリ。又債主ニ義務ヲ
果スマテ、宮殿ノ裝飾物ヲ封鎖スルコト、ナレリ。而
ルニ威斯明流ハ裝飾物ハ既ニ親屬ニ賣却シタルモノ
ナリトテ、其封鎖ヲ拒ミ、債主ハ之ヲ偽證ナリトテ一
時大ニ争ヒシガ、人民激昂シテ死ヲ以テ國王ノ爲ニ
防禦セントスルノ舉動アルヲ以テ、宮殿ノ裝飾物ニ
手ヲ着クルノ一事ハ己ミタリ。

尋イテ委員ハ外務大臣兼司法大臣清流^{セリウフ}夫侯ヲ委員庭

委員外務大臣ヲ訊問
セントス

ニ召喚シテ訊問スル所アラントセリ、而ルニ侯ハ之ヲ斥ケテ曰ク答フ可キ事アラバ則チ書ヲ以テ答フベシ一國大臣タルモノ豈外國委員ノ面前ニ召喚セラレテ、訊問ヲ受クベキアランヤト。固ク持シテ應ゼズ、是レヨリ政府ト委員トノ間大ニ葛藤ヲ生ジ、遂ニ侯ヲシテ其職ヲ辭セシムルノ一大原因トハナレリ。

既ニシテ又國債ノ利子一千萬弗ヲ償却セザルベカラザルノ期来ル、然レドモ今ハ到底之ヲ得ルノ道ナシ、因テ歐ノ管理員ハ威斯明流ヲ強迫シテ曰ク、國ノ一主權者タル者必ズ此責ヲ負ハザルベカラズ、宜ク其

王室所有ノ土地ヲ債主ニ出ス

外人内閣ニ入ル

私産ヲ出シテ以テ此義務ヲ償フベシト。應對數日、公私混合負債ノ口實ヲ以テ、遂ニ王室所有ノ土地ヲ出サシメ、後其土地ヲ歐洲ノ豪富家路斯ロスチルト中流土ニ典シ、四千二百五十萬金ヲ得、此年及次年ノ利子ニ充ツ。此際委員長寇遜アレクサン及武利苦寧テイハ、王ノ爲ニ周旋シ、國家ノ急ヲ濟フベシト説キ、埃及政府ヲ籠絡シテ、武利苦寧ハ入りテ工部大臣トナリ、寇遜ハ入りテ大藏大臣トナル、是實ニ一千八百七十八年八月ナリ、而シテ寇遜ハ猶英國負債管督委員ヲ辭セズ。抑埃及ノ大工業ハ離江ノ堤防ト鐵道トノ二事ニ過ギズ、故ニ工部大藏二大臣ハ實ニ一國ノ事業ヲ專任スルモノナリ、而ル

思毛計ノ書

埃及官吏五百餘人ヲ免レ歐人ヲ以テ代ユ

ニ今ヤ英人大藏大臣トナリテ出ス事ヲ司リ、佛人工部大臣トナリ企業ヲ司ル、嗚呼埃及ノ全權既ニ已ニ佛英二國ニ歸シタリト謂フモ、其レ誰カ不可ナリト謂ハンヤ。思毛計^{シロウケイ}ノ埃及記事ニ曰ク、二人ハ此時ヨリ本國政府總領事及ビ債主等ノ威ヲ假リ、無限ノ權力ヲ得テ、貧弱ナル埃及人ノ膏血ヲ吸收セリ、然レドモ彼レ外ニハ熱心ノ風ヲ裝ヒ、埃及ノ爲ニ困難ヲ救濟セント主張セリ、其内閣ニ入ルヤ否、忽チ政務ノ改革ヲ行ヒ、即時ニ五百餘人ノ埃及人ヲ免シ、更ニ親戚朋友及ビ數百人ノ歐人ヲ以テ之ニ代ヘタリ、其言ニ曰ク、革新ノ政ヲ行ハント欲セバ、我が意ニ適スルモノ

ヲ以テ部下トセザルベカラズ、而シテ埃及人ハ老朽用ニ任ヘズト、何ゾ其横恣ノ甚ダシキヤト。

一千八百七十九年ノ始メ七百四十四人ノ歐洲人埃及官吏トナル、當時財政ノ困難ハ實ニ前日ノ比ニアラズ、而シテ裁判、鐵道、電信、稅關等、ノ諸局中殘ル所ナク、不必要ノ事ニ至ルマテ皆歐人ヲ登用セリ。同年ノ末ニハ更ニ二百八人ヲ増シ、三十萬弗ノ給料ヲ増ス。一千八百八十年ニハ、又二百八十人ヲ増シ、其翌年ニハ十一萬八千弗ヲ加フ、其後歐洲人ヲ使用スルユト漸ク加ハリ、一千八百八十二年ニハ一千三百二十五人ノ多數ニ上リ、百八十六萬五千弗ノ給料ヲ支給ス

外人ノ登用

ルニ至レリ。

英國總領事曾テ威斯明流ニ謁シ、公債ノ利子ヲ請求ス、時ニ威斯明流大息シテ告ゲテ曰ク、汝余ヲ責ムルニ責任ヲ盡スベキヲ以テセリ、然レドモ責任ノ二字ハ實ニ余ヲ責ムヘキ語ニアラザルナリ、余ガ今日埃及ニ於ケル境遇ハ果シテ如何ゾヤ、余ハ既ニ汝等ニ向テ私有財産ヲ與ヘ、人權ヲ與ヘ、又内閣ヲ與ヘ了レリ、而シテ猶ホ余ニ責任ノ存スルアルヲ得ルカ、初メ汝英國政府ハ余及余ガ政府ニ示スニ好意ヲ以テセリ、而シテ今ヤ全ク相反シテ唯余及余ガ政府ヲ窘究セシメント務ムルモノハ何ゾヤト。

威斯明流ノ怨言

地押調査ヲ始ム

既ニシテ政府ハ歐人ヲ入ル、ニ從テ、困難漸ク甚ダシク、租稅モ募ル能ハズ、公債モ募ル能ハズ、英佛人ナル内閣大臣モ亦如何トモス可カラザルニ至レリ。因テ此ニ彼等ハ又一策ヲ案シテ曰ク、土地ノ丈量ヲナサバ從來ノ漏逸シタル處ヲ得ルコト大ナラント、乃チ歐人ノ一隊ヲ各地ニ派遣シ、實測ニ從事セシメタリ。土地實測ハ、其土ニ慣レタル者スラ、尚ホ難シトスル所、況ヤ土音地勢ヲモ知ラザル歐人ヲ以テ、其成功ヲ見ントスルヲヤ、収支ノ費相償フ能ハズ、加フルニ人民ノ激昂アルヲ以テ、轄ク之ヲ緩ベ、別ニ方策ヲ計畫セントシ、先ッ埃及人ノ官吏ヲ汰シ、埃及兵ヲ

士官二千五百人ノ俸給ヲ半減ス

新税ヲ課ス

減シ、以テ公債ノ利子ヲ得ント欲セリ。蓋シ兵士ヲ減ズルニハ其便ニアリ、第一政費ヲ減ズルヲ得ベシ、第二將士ヲ減セバ壓制シ易クシテ、歐人ハ安全ナリ。是ニ於テ先ヅ士官二千五百人ノ俸給ヲ半減シ、其得ル所ノ金ヲ以テ歐人ニ償却セリ。然レドモ猶ホ足ルコトナシ、因テ更ニ一策ヲ案ジ、古來特權ヲ以テ庸役ヲ蠲カレタル種族ニ向テ、庸役ヲ課シ、金ヲ以テ之ヲ償フコトヲ許シ、又特許ノ貴族ニ租税ヲ課セリ。代庸金ヲ課セラレタル者、新ニ税ヲ課セラレタル者、皆其感情ヲ破リ、國民非常ニ激昂ス。當時一國ハ重税ニ苦ミ、又如何トモスベカラザルニ、更ニ土地ノ實測ヲ蒙フ

リ、今ハ大獸ノ脚底ニ壓伏セラレタルガ如キニ至レリ。是ニ於テ内國ノ議員ハ皆海樓府ニ集リ、埃歐混合ノ内閣ハ一國ノ獨立ニ反シ、立國ノ基ニ反スルヲ痛論セリ。

始メ歐人ハ埃及人ヲ輕侮シ、能ク爲ス無シトナセシガ、今ヤ國民黨ノ勢漸ク發達セシヲ見テ大ニ恐ルベシトナシ、王權ヲ殺クノ手段ヲ變ジ、王權ニ據リテ以テ之ヲ鎮壓セント計畫セリ。外交官ハ威斯明流ニ迫リテ曰ク、國民黨ハ歐人ニ反對スルモノニシテ、即チ内閣ニ反對スルモノナリ、内閣ニ反對スルハ即チ殿下ニ反對スルモノナリ、宜ク速ニ嚴令ヲ下シ自國ニ

退居セシムベシ、是レ殿下ガ務メナリト。

威斯明流廢セラレ通
必苦位ニ即ク

後國民ノ輿論ニ依リ、歐人混合ノ内閣ヲ解散セラル、然レドモ威斯明流モ亦外人ノ爲ニ其位ヲ廢セラレ。

一千八百七十九年

通必苦ノ即位ハ歐洲株主ノ擁立ニ由ルト云フモ誣言ニアラズ、故ニ是レヨリ後歐人ノ專横ハ愈々益々甚ダシ。一千八百七十九年七月十三日、通必苦ヲシテ管理總事務所ヲ建ツルコトヲ承諾セシム、蓋此事務所ヲ建ツルコトハ、唯其口實ニシテ、實ハ歐人内閣員タラント欲シタルニ在リ、然レドモ全國ノ輿論激烈ニ反對ノ色ヲ顯セシヲ以テ已メリ。當時歐洲出身ノ大臣ナシト雖モ、歐人官吏ノ數千三百餘人ノ多キアリ、

其俸給ト國債ノ利子トノ爲ニ、一國ノ財貨ハ全ク潤渴シ盡キテ殆ド吸ヒ盡シタル相實ノ如キニ至レリ。

此年十月又利子ヲ拂ハサルベカラサルノ期トナル、然レドモ今ハ全ク之ヲ得ルノ途ナシ、且是レヨリ先キ、地方ノ人民租稅ヲ収ムルガ爲ニ、不利益ナル條約ヲ以テ、其所有地ヲ抵當トシ、歐人ヨリ債ヲ借り、遂ニ償却スル能ハズシテ、歐人ノ手ニ歸シタルノ土地多ク、又農民ノ無學ニシテ法律ニ通ゼサルヲ欺キ、歐人ノ掠取シタル土地多カリシガ、歐人ハ混合裁判ノ虛威ヲ假リ、種々ノ事故ヲ構造シ、敢テ其租稅ヲ政府ニ納メザリキ。農民ハ又其食ヲ得ルノ處ナク、財ヲ得ル

田畝外人ニ歸ス

ノ方ナク、己ムヲ得ズ、據リテ以テ生活ヲ助クル所ノ家畜ヲ牽キ来リ、之ヲ市ニ賣ル者、陸續トシテ相絶エズ、真ニ餓等道ニ横ハルノ状アリ。然レドモ政府ハ外人ノ誅求黙過ス可カラザルヲ以テ、笞杖ノ酷刑ヲ利用シテ、租税ヲ徵集シ、猶ホ収メザルモノハ獄舎ニ幽閉セリ。

酷刑慘狀此ニ至ル、而シテ國費ハ遂ニ得ル能ハズ、是ニ於テ償却金ヲ減ズルノ外、又他ノ策ナシトナシ、歐人中ヨリ財政委員ヲ撰ビ、株主ノ減スルヲ得ルノ極、埃及人ノ収ムルヲ得ルノ極、又地租ノ最高度ヲ調査スルコトニ決シ、英人二人佛人二人獨塊各一人ヲ撰

租稅徵集ノ爲メニ酷刑ヲ用ユ

財政委員ヲ設ク

一千八百八十年

ミテ、其任ニ當ラシム、是レ一千八百八十年四月ナリ。委員等ハ協議ノ後往年始メタル土地實測ヲ遂グベシト決ス。是レ專ラ租税^{モツケイバ}一時上納法ヲ廢セントスルニ在リ、若シ今土地ヲ實測シテ僅少ノ面積ニテモ從來納税面積ヨリ廣キトキハ、則チ以テ政府ヲ欺キタルモノナリト爲シ、租税一時上納法ノ特許ヲ消滅セント欲スルナリ。是ヲ以テ埃及人民ノ感情又益、歐人ニ反對セリ。又此委員ヲ命ズル時ニ當リ、英相佐理須保利ハ萬國公法ニ據リ、各國公使ニ告ゲテ曰ク、此委員ノ決定シタルモノハ、決シテ動カス可カラズ、必ズ實行セシムベシト。然レドモ埃及政府ハ敢テ此言ヲ容

レズ、土政府モ亦固ク之ヲ斥ケタリ。蓋シ埃及政府ハ
 曰ク、是委員ハ一千八百八十年三月卅一日ヲ以テ埃
 及王ノ勅命シタルモノニシテ、其俸給及費用ノ如キモ
 皆埃及國ノ支辨スル所ナリ、即チ一國ノ行政事務ニ
 シテ外國ノ關ス可キモノニアラズト、是レヨリ其交
 渉漸ク紛糾ニ赴ケリ。而ルニ管理官ハ其非ヲ遂ゲン
 ト欲シ、口實ヲ捏造シテ曰ク、埃及ノ議員ガ一國ノ財
 政ヲ討議決定スルハ、初メ萬國ト條約シタル本文ニ
 反スルモノナリト。此口實ハ英佛ノ總領事モ亦翼賛
 シテ與ニ政府ヲ攻撃シ、遂ニ兵力ヲ以テ行政事務ニ
 干涉シ、爲ニ汚名ヲ天下後世ニ流スニ至レリ。

英國議員ノ政府ヲ尤
 メザル理由

抑英國政府ノ所爲此ノ如ク暴横ナリ、而シテ英國議
 員ノ之ヲ尤ムルモノ少ク、却テ埃及行政ニ干涉スル
 ヲ協賛シタルモノハ何ゾヤ、是レ實ニ其故ナキニア
 ラザルナリ。初メ威斯明流ノ位ヲ廢サレタル時ニ當
 リ、財政委員ハ英國政府ニ報シテ曰ク、吾人が財政ニ
 干涉シテヨリ、埃及人民ハ全ク蘇生ノ思ヒヲナセリ、
 即チ人々其堵ニ安シ、貧富ノ懸隔甚ダシカラズ、租稅
 ノ額モ亦相平均セリ、納租ノ停滯ナキヲ以テ鞭笞入
 獄ノ刑ヲ履ムモノナク、家々富有ナルヲ以テ債主輩
 ニ寤究セラレ、モノナシ、資金家ハ農民ニ借スヲ得
 ザルヲ以テ空シク萬金ヲ庫底ニ積ミ置ケリ、故ニ其

利子ノ如キモ最モ低減シテ舊時ノ半ニ當ラズ、地價ハ漸々騰上シ、五六年前ニ比スレバ殆ト十倍ニ達セリ、然レドモ土人ハ之ヲ賣ルモノナシ、農民ハ皆自ラ進テ租ヲ納メザルナク、其庸役ニ出ツル者ハ政府相當ノ賃錢ヲ給セリ、然レドモ衆民ハ之ヲ受クルヲ欲セズ、自ラ國家ノ爲メニ服役センコトヲ願フモノ多シ、且政府不正ノ要求ハ全ク止ミ、絶エテ脅迫ノ痕跡アルナシ、而シテ人民ハ一二年ノ租税ヲ前納セント望ムモノアリ、是レ實ニ吾人が干渉ノ結果ナリト、議院ノ大半ハ之ヲ信シ英佛ノ干渉ハ全ク埃及ニ利アルモノト爲シタルニ由ルノミ。

英國議院日誌Aノ部
三十五卷ニ詳ナリ。

同年四月十七日新國債償却法ヲ布告ス、其法ニ曰ク、從來ノ高利ヲ平均シテ年七朱トスト。然レドモ當時ハ利子増加シテ原債ヨリモ却テ巨額ニ上リタレバ、七朱ノ利モ實ハ八朱ニ適合セリ、今埃及ノ總負債ヲ案ズルニ五億三千萬弗アリ、之ニ八朱ノ利ヲ償却スルトキハ、年々埃及ノ總歳入四割半ヲ以テ充テザル可カラズ、而シテ其元費ニ至リテハ遂ニ償却スルノ期アルナシ。又此法ニヨリテ租税一時上納法ハ遂ニ廢棄トナレリ。嗚呼農民ガ血涙ヲ絞リテ、買ヒ得タル此法モ空シク畫餅ニ歸シ去リテ、徒ニ政府ノ欺詐ニ陷レリ、人民ノ感情果シテ如何ゾヤ、若シ管理官ニシテ

正當ノ方法ヲ爲スモノナラバ、公債証書ヲ與フルニアラズンバ、又他ノ好方便ヲ取り、其ヲシテ全ク損失ニ歸セザラシメザル可カラズ、然ルニ今更ニ顧ミル所ナシ、暴横モ亦甚ダシト謂フベシ、人民ガ國家ノ急ヲ思フヨリ、高利ノ債ヲ負フテ租稅ヲ前納シタル損失ハ、十四年間ニテ一億二千萬弗ニ上ル可シ、而シテ一朝無効ニ歸ス、人民亦豈黙々タルヲ得ンヤ。是ニ於テ物議沸湧、民情一時騷然タリ、因テ外國管理員更ニ相協議シ、多數ヲ以テ一年七十五萬弗ヲ五十年間ニ與フル事ニ決ス。人民猶以テ非理ナリトシ、遂ニ混合裁判ニ起訴シタリシニ、又多數ヲ以テ排棄セラレタ

リ。抑一年七十五萬弗ノ下附金ハ、此人民ガ損失ノ年一朱ニ當ラズ、而シテ其七十五萬弗モ亦人民ノ土地ニ課稅シテ得ル所ニ外ナラザレバ、是レ亦更ニ政府ヨリ得ルモノニアラズ、即チ自ラ取ルニ異ナラザルノミ、嗚呼其所爲此ノ如シ、是果シテ能ク他國ノ爲ニ財政ヲ經理スト謂フヲ得ベキカ。然レドモ國歩ヲシテ艱難此ノ如キニ陥ラシメタル原因ハ唯外債ニ在ルノミ豈慎マザル可ケンヤ。

第十三

租税及農民。

埃及ハ農ヲ以テ建國ノ大本トセルモノナリ、古代ノ
碑石墳墓ニ彫刻スル圖畫ヲ見ルニ、一モ農事ナラザ
ルナシ、是ヲ以テ後世ニ至ルマデ、又其風ヲ失ハズ、國
内ノ人口六百萬ニシテ農民ハ其四百萬口ヲ占メ、工
商及牧羊者甚ダ僅少ナリ。蓋シ埃及ハ氣候最モ農業
ニ適スル所ニシテ一歳ノ中、栽培絶ユル時ナク、禾穀
ノ收穫三四度ニ及フエトヲ得。

地稅ハ政府ノ收入ノ大源ニシテ、全收入二千二百餘
萬弗ノ中、地租一千一百萬弗餘ニテ、殆ド其大半餘ヲ

地租

占ム、而シテ其土地ヲ三等ニ區別シ、第一等ノ土地ハ
一「エークル」毎ニ二十二志ヲ納ル、其土地ハ三百五十
一萬四千「エークル」アリ、多ク下等農民ノ耕作ニ係ル、
第二等ハ百三十二萬「エークル」アリ、此租税ハ毎「エー
クル」七志ヲ納レ、尚ホ年々十二志ヲ上納スレバ賦役
ヨリ免除セラル、ヲ得、又第三等第一種新開地ハ六
年間無税、以後十六志ヲ上納シ、第二種ハ三年間無税、
以後物産ノ一割ヲ納メ、賦役ヨリ免除セラル、制ナ
リ。

桫欏木及塩

之ニ次ギ重ナル税源ハ、桫欏木税ニテ、一樹ニ付キ大
凡四志トス、鹽ハ政府ノ專賣ニシテ、男女老幼ヲ問ハ

所得税及入府税

ズ、一人ニ付キ年税ニ志ヲ納メザルヲ得ズ、又公權ヲ
有スル者ハ全シク五志ヲ納メザル可カラズ。
所得税ハ商人及工業人ノミ之ヲ納ム、其業ニ依リ二
割ヨリ四分マデヲ納ム、又入府税ハ諸物産ノ入府ス
ルモノ九分ヨリ二分マデヲ納ム。

農家田畝ノ状

農業ノ第一着手ハ灌溉ニ在リ、即チ難江ノ堤ヲ決シ
テ其水ヲ灌溉スルユトニシテ、此水ヲ蒙フル處ハ他
ノ肥料ヲ要セズ、肥沃トナルヲ以テナリ。農家ニハ田
園ノ中央ニ一池ヲ穿ツ、是レ一ハ魚ヲ養ヒ、一ハ氾濫
ノ際ニ難江ノ水ヲ蓄ヒ、漸々ニ灌溉セントスルナリ、
且ツ埃及人ハ古ヨリ魚類ヲ飼養スルユトヲ務ム、彼

ノ米里阿須湖ノ如キハ全ク其目的ヲ以テ鑿堀シタル
モノニシテ、同湖ヨリ産出スル魚類ハ以テ國稅ノ一
分ヲ補フニ足ルト云フ。

苛征暴斂

埃及農民ハ古來屢外國ノ侵掠ニ苦ミ、又諸侯僧侶ノ
厭抑ニ困メラレ、苛征暴斂ハ殆ト其常トナリシガ、威
斯明流ノ時ニ至リテ其極ニ迫レリ。英人某曰ク、埃及
農民ノ困難ハ印度人ヨリモ甚ダシ、印度人ノ苛稅ハ
收穫ノ二割三割甚ダシキニ至リテハ五割ノ重稅ヲ納
メザル可カラザルモノアリ、然レドモ未ダ埃及人ノ
重稅ヲ課セラレテ、而シテ半年又ハ一年ノ前納ヲ命セ
ラレ、之ヲ納ムル能ハズシテ土地家屋ヲ官沒セララル

英人ノ言

希臘ノ高利貸

ハガ如クナラズ、蓋シ埃及政府ハ農民ニ向テ半年又
ハ一年ノ租稅ヲ前納セシム、若シ之ヲ納ム能ハザル
トキハ、收稅吏ハ必ズ先ツ未納者ヲ招喚シテ痛ク之
ヲ督責ス、農民若シ金策既ニ盡キテ又如何トモス可
カラザルヲ告グレバ、收稅吏ハ必ズ其方法ナクンバ
アラザルヲ責ム、忽チニシテ希臘ノ高利貸ヲシテ其
側ニ顯ハレシメ、將來ノ收穫ヲ抵當トシテ金ヲ貸サ
シメ、直ニ之ヲ納メシム、其計略實ニ惡漢ノ財ヲ騙取
スルニ異ナラズ。抑希臘ノ高利貸ナルモノハ、其初メ
各村落ニ小商店ヲ開キ、一月三四分ノ利ヲ以テ村内ノ
貧人ニ多少ノ金員ヲ貸與シ、其利息トシテ穀類又ハ

綿等ヲ獲ルノ約ヲ結ビ、其利ヲ併セ、漸ヲ追フテ巨萬ヲ積ミ、輸出高トナリ、終ニハ一村ノ經濟ヲ左右スルニ至ルモノナリ、其利息ハ一年甚ク低下ナルモ三四割ニ下ラズ、而シテ貧農ハ目前ノ急ニ迫ラレ、利ノ高下ヲ問フニ違アラズ、且ツ其借ル所モ甚ク巨額ナラザルニ迷ヒ、知ラズ識ラズノ間ニ元利嵩ミ、其土地家屋ヲ舉ゲテ皆高利貸ニ没セラル、ニ至ルモノ少カラズ。又高利貸ハ常ニ姦策ヲ行ヒ、賄賂ヲ以テ小吏ヲ籠絡シ、或ハ不法ノ度衡ヲ用ヒ、或ハ証書ノ數字ヲ變詐シ、混合裁判所ヲ利用シテ訴訟ニ勝ヲ取り、他ヲ倒シ已ヲ利スルノ策ニ汲々トシ、或ハ租稅増加ノ時ニ

乘ジ、或ハ不景氣ノ機ニ投ジ、以テ高利ヲ貪ラント欲セリ。是ニ於テ埃及農民ノ負債ハ殆ト三千萬弗ニ達スルニ至レリ。即チ之ヲ人口六百萬人ニ配當スレバ、平均一人五弗一家二十五弗ノ負債トナル、農民が陋屋ニ住シ、蔬食ニ飽ク能ハザルモ亦以ナキニアラザルナリ。愛蘭及露國ノ農民ハ大地主ノ爲ニ小作人トナルモ、埃及ノ農民ハ地主ニテ歐人ノ爲ニ小作スルモノト稱スベシト。

農民ノ食物

農民一般ノ食物ハ甚クシキ麁食ニシテ、中等以上ノ人家ニアラザレバ麵包ヲ食フコト能ハズ、上下與ニ一日一度菜汁醬油ノ汁ニ野菜ヲ混シタルモノヲ食スルノミニシテ、其他

ハ食フニ堪ヘザル草根ノ類ヲ掘リテ之ヲ食フニ過ギズ、又山羊ノ乳ヲ飲料トス、然レドモ日子ヲ經テ其乳ノ酸味ヲ帶ブルニ至リテ始メテ飲ムノ習慣ナリ、魚肉ノ如キニ至リテハ農民ノ齒牙ニ觸ル、コト一歳ノ間、指ヲ屈シテ數フ可キニ過ギズ。

農民ノ家屋

其住スル所ノ家宅ハ極メテ矮小ナル陋屋ニシテ、一見入ヲシテ情ニ堪ヘザラシムルニ至ル。家屋ノ高サハ概子五六尺ニ充タズ、四面ハ軟弱ナル瓦灘江ノ泥ヲ固ルモノ又ハ羸惡ナル土壁ヲ以テ之ヲ圍ミ、屋上ハ麥管稗葉ヲ泥土ニ塗リ、若クハ葦縷破菰ヲ以テ之ヲ覆ヘ、出入ノ處ハ其高サ四五歳ノ兒童ヲ往來セシムベキニ



過ギズ、屋内ノ室數ハ多キモ二房ヲ出デズ、房中ニハ三四枚ノ席、一枚ノ羊皮、銅鍋、土碗、木皿ヲ置クノミ、而シテ一家數口悉ク皆其中ニ起卧ス、其陋其穢真ニ想像ノ外ニ出ツ。一千八百四十八年虎列刺大ニ流行シテ死スルモノ三十万人ニ上レリ、是レ蓋シ其汚穢不潔ニ源セズンバアラザルナリ。

日常ノ舉動

農民ノ困難ハ真ニ此ノ如シ、然レドモ氣候土地ノ然ラシムルヨリ、一朝其業ヲ變シテ他ニ移ルベキノ職ナク、又性質習慣ヨリ人民モ亦敢テ轉業セント欲スルノ念アル者ナク、唯家郷ヲ好ミ、遠遊ヲ知ラズ、妻子團聚ヲ以テ無上ノ娛樂トナシ、僅ニ去テ徵兵ニ出ツ

安心立命ノ地

歐洲記者ノ文

ルヲ以テ非常ノ悲嘆トナシ、一生村外數里ノ土ヲ踏
マザルモノ比々皆是レナリ。

埃及農民ガ頼テ以テ稍々心ヲ安ズル所ノモノハ生前
ニ於テ善ヲ積ミ、惡ヲナサザルトキハ、死後ニ至リテ
幸福ヲ享クベク、今日ニ於テ驕奢ニ耽ル者ハ、他界ニ
到リ必ズ憂苦ノ世界ニ墮落スベシト信ズルニ在リ。

歐洲ノ一記者嘗テ農民困難ノ狀ヲ記スルモノアリ、
今左ニ譯載スベシ。

一農家アリ、廿年前ハ中等ノ生活ヲ營ミ、庭園甚ダ
廣ク、二頭ノ牛ト一頭ノ騾馬トヲ畜ヒ、十餘町歩ノ
田畝ヲ有セリ、家ニハ兄弟四人アリ、其三人ハ皆妻

アリ、一家和合シテ快恬ニ日月ヲ消セリ、偶々米國
南北ノ戰爭起リ、綿花ノ供給乏キヲ告ゲ、其價格頓
ニ騰上ス、埃及ハ元ヨリ綿花ノ栽植ヲ獎勵セシガ、
此時ニ至リ、漸ク結果ヲ生ジタルヲ以テ、非常ノ大
益ヲ得、闔國ノ農民鼓腹シテ相祝賀セリ、而ルニ未
ダ幾ナラズ、戰爭局ヲ結ビ、綿花ノ價亦舊ニ復シ、利
益漸々ニ減少シ、加フルニ財政ノ紊亂ヨリ、政府
ハ一年半ノ租稅ヲ前納スベキ嚴令ヲ下附セリ。是ニ
於テ彼ノ一家ハ如何トモスベキナク、兄弟首ヲ擯
メテ其方法ニ苦ミタリ。時ニ希臘人ノ其村ニ在ル
者、之ヲ聞キ、直ニ奔リ來リ、甘言ヲ以テ之ヲ誘ヒ、

高利ヲ課シテ若干ノ金ヲ貸スコトヲ約ス、兄弟ハ其急ヲ救フヲ得ルヲ喜ビ、遂ニ以テ一時ヲ救済セシニ、未ダ數月ナラザルニ収税吏ハ又其門ニ来リテ、更ニ地方税ヲ催シ、希臘人ハ返債ヲ嚴促セリ。然レドモ今ヤ片金ヲ得ルノ道ナク、催吏ニハ鞭笞セラレ、希臘人ニハ逼迫セラレ、遂ニ田畝ニ栽植シテ猶未ダ収獲ニ至ラザル穀物ヲ賣リ渡スノ約ヲ以テ、非常ノ低廉ニ買ヒ取ラレ、僅ニ地方税ヲ納メ、負債ノ大半ヲ拂フヲ得タリ。是ニ於テ兄弟僅ニ微息ヲ得タリシニ、忽チニシテ催吏ハ又其扉ヲ叩キ、公租及協議費ヲ催セリ。積弊ノ餘、何ゾ俄ニ納ムルコト

ヲ得ンヤ。又杖ヲ受クル百餘、長兄ハ脚破レテ行歩スル能ハザルニ至ル。因テ已ムヲ得ズ、一家ノ生命ヲ繋グベキ牛馬器具ヲ賣リ盡シテ、又一時ノ急ヲ免レタリ、然レドモ既ニ牛馬ヲ失ヒタルヲ以テ、耕作昔日ノ半ニ上ラズ、之ニ加フルニ日常必要ノ器具一モ其家ニ止マル者ナク、今ハ前途ノ生計ヲ立ツルコト能ハザルモノ、如ク、且ツ債主ノ久シク来ラザルヨリ、殆ト忘却シテ念頭ニ掛ケザリシニ、一年餘ヲ經テ、又迫リ来リ、直ニ元利ノ償却ヲ促ス、而シテ其利金ヲ見レバ殆ト原債ニ五倍スルニ至ル。今ハ真ニ計ノ出ツベキナク、乃チ長兄ハ衆弟ニ告

ゲテ曰ク、兄弟此ニ在ル唯餓倒ヲ待ツニ過ギズ、若
 カズ此家ヲ捨テ、他方ニ逃レ、以テ幸運ヲ求メン
 ニハト。二弟曰ク不可ナリ、未ダ此ノ如ク急驟ナル
 可カラズ、猶ホ祖先傳來ノ田畝ヲ止メテ在リ、何ゾ
 之ヲ賣リテ以テ我が急ヲ濟ハサルト、長兄涙ヲ垂
 レテ曰ク、汝等何ゾ其世事ニ通ゼサル、今日誰カ我
 ガ田畝ヲ買フモノアランヤ、棄テ、與ヘント欲ス
 ト雖モ、亦之ヲ受クルモノアル可カラズ、我が田畝
 ノ収獲ハ我が租税ヲ納ムルニ足ラズ、誰カ此田畝
 ヲ得テ催吏ノ鞭笞ヲ受ケンガ爲ニ、勞働スル者ア
 ランヤト。次日長兄ハ妻子ヲ携ヘ、遂ニ他方ニ去リ、

未ダ一月ナラザルニ、次兄モ亦去リ、唯二第一婦ヲ
 剩シ得タリ。田畝ハ漸ク荒廢ニ赴キ、収獲益減シ、而
 シテ租税ハ更ニ重キヲ加ヘ、調役ハ又昨日ノ如シ、
 催吏ノ嚴責債主ノ誅求愈急ニ愈激シク、既ニシ
 テ少弟モ亦逃レ去リ、今ハ仲弟夫妻ニ過ギズシテ、
 又如何トモス可カラザルヲ以テ、家屋ハ債主ニ渡シ
 田畝ハ政府ニ没入セラレ、累代ノ一家此ニ全ク免
 解ヲ告ゲタリ。蓋シ仲弟ハ家産ヲ失ヒタル後、王室
 ノ土地ヲ借りテ耕作セシガ、却テ昔日ヨリモ其困
 難ヲ減シタリト云フ。

和禮須曰ク、埃及ノ農業ハ唯離江ノ水利如何ニ在ル

ノミ、而ルニ威斯明流ノ甚ダシク歐人ヲ崇拜シタルヨリ、農業モ亦歐式ヲ用ヒント欲シ、爲メニ非常ノ國費ヲ徒消シタルハ、實ニ痛嘆ニ堪ヘザル所ナリ、或ハ大ニ土木ヲ起シ、未タ成功ニ至ラズ、修復保存ノ費用ヲ支フ能ハズシテ中廢シ、器械ノ運轉セザルヲ以テ棄却シ、爲メニ其費用ヲシテ畫餅ニ屬セシメタルモノ、實ニ其數ヲ知ラズ、夫ノ難江堤防ノ大工事ノ如キ、赫如タルモノニシテ、佛人が三十餘年ノ日月ヲ經、莫大ノ金額ヲ費シテ築建シタルモノナレドモ、其基礎甚ダ固カラザルヲ以テ、水勢ヲ支フルコト能ハズ、遂ニ無用ノ長物ニ歸セリ。是レ技師ノ地理ニ明ナラザ

ルト、事務者ノ注意到ラザルトヨリ生ジタルモノナレドモ、要スルニ又埃及人ノ無責任歐人ヲ崇拜スルニ過ギタル結果ニ外ナラズ。又提留^{タル}泥流計米留^カ近傍ノ良田八千八百餘町ハ勵節夫ノ計畫ノ爲メニ其四百餘町ヲ荒廢ニ歸シタリ、又一地方ノ郡長ガ歐人ノ技師ト爭論シタルヨリ、技師ハ之ヲ恨ミ、播植ノ時ニ當リ、其水道ヲ塞キ、其地方ノ水ヲ涸シ、數十村ノ農民ヲシテ飢餓ニ陥ラシメタリト。

又曰ク威斯明流ハ先王ノ讓位ヲ受ケ、外人ノ媚譽ニ乘ジ、埃及國ヲシテ東洋ノ白耳義ト爲シ、政治文物典章ヨリ農工商ニ至ルマデ長足濶歩セシメント欲シタル

綿花ノ騰貴

が如シ。時ニ米國內亂ノ爲メニ南方綿作ノ廢レシヨリ埃及ノ綿價ハ非常ニ騰貴シ、資金ハ歐ノ工業世界ノ中心ヨリ溢レ込ミ、人民ハ綿ヲ作ルトキハ今日マデノ數倍ノ利得アルヨリ、政府ハ之ヲ獎勵シ、官有地ハ勿論諸貴族豪家ヨリ細民ニ至ルマデ、皆爭フテ之ニ從事シタリシヲ以テ、其繁昌甚シク、昨年マデ奴隸同様ナリシモノモ、今ハ身体ヲ纏フニ絹布ヲ以テシ、指腕ニ環スルニ金銀ヲ以テシ、而シテ香水ヲ頭髮ニ灑グが如キ勢ニ至レリ。其三年間ニ輸出セシ綿價ハ二千萬弗ヨリ六千萬弗ニ超過シタリ、以テ人民ノ利益ノ莫大ナリシヲ見ルベシ。此ノ如ク意外ノ利益アル

ヨリ、殆ド地味ノ盡クルヲ顧ミズ、一意ニ綿花ヲ栽植シ、米國ノ爭亂治マルノ後ニ新事業ノ綿作ハ以テ米國ト競争スル能ハザルコトヲ預知セズ、其非常ノ輸出アルニ乘ゼシヨリ、自然ニ其物質モ粗惡ニ流レ、三年間ノ大増加ニテ其價額ハ頓ニ下落シ、而シテ全國ノ資金ハ悉皆之ニ投入シタルガ爲ニ金融大ニ缺乏シ、同時ニ地味ハ枯竭シ、租税ハ増加シ、人民ハ負債ノ淵ニ沈ミ、漸々家産ヲ破ルモノ多キニ及ベリ。此時ニ當リ謹慎ニシテ國ヲ憂ヒ民ヲ愛スルノ政府ナラシメバ、主トシテ其重税即チ歳入豫算額ヲ省減シテ休養ノ道ヲ計ルベキニ、埃及王ノ深慮此ニ出デズシテ、一時作

物ノ騰貴スル變相ヲ以テ、永久ノモノトナシタルハ實ニ歎ズベキノ至リナリ。而シテ此政策ヲ保持スルガ爲メニ、收納期限ニハ用捨ナク公賣處分ノ嚴命ヲ以テ人民ヲ責メタリ、人民ハ高利ノ金ヲモ借盡シテ、今ヤ借ル處ナク、或ル地方ノ如キハ人民耕作ヲ業トスルノ収支相償ハザルヨリ、土地ヲ視ルコト贅物ノ如ク、永住ノ村落ヲ離レテ、日雇人ニ轉業シ、恒ノ産ヲ失ヒシ者甚ク多シト云フ。而シテ國王ハ之ヲ視テ怪マズ、其計畫セル小農ヲ廢シテ大農ノ官有地トナスヲ良策トセリト云フ。又顧問官等ハ是レ一時財政ノ變動ニテ避ク可カラザルモノナレドモ、久シカラズシ

テ利益ナキ此事業ヲ棄テ、他ニ轉業シ、農商工直水ノ如ク平均ヲ得ルコト必ズ經濟ノ理ニ合フベシトノ偏説ヲ抱キ、大英斷ヲ以テ小農ヲ兼并シテ官有地トナシ、畫一ノ法ニ依リ歐洲ノ農業法ヲ採用シ、尤モ便利ナル新器械ニテ耕作セバ、人力ヲ省キ費用ヲ減ジ、遂ニ世界ノ穀物ヲ壓倒スルコト難カラズト勸告シ、廣サ十萬「エークル」ヨリ千「エークル」ヲ超ユル五十箇所ノ大農場ヲ設立セシメタリ。或ハ云フ、國王ハ外人ノ言ヲ信ジ、東洋ノ白耳義國ヲ作ラント欲シタルヨリ、外人ノ爲メニ關門ヲ開放セバ、歐人ハ直ニ移住センモノト妄想シ、全國ノ土地ノ

外人ニ占領セラル、ヲ恐レ、先ヅ之ヲ合セント欲シ
官有地大農法ヲ斷行セシナリト。又官有地ノ事業ハ
更ニ地方ノ實地景況ヲ知ラザル海樓府中央政府ノ命
令判決ヲ仰ガザル可カラザルヨリ、其事業ノ成功ヲ
望ムモ得ベカラズ、加之官吏ガ受負人ニ土地ヲ分附
スルニモ、夥多ナル利益ノ配當ヲ約束シ、賄賂ノ多寡
ニテ其入札ヲ落スノ惡風行ハル、假令ハ中央政府ノ
命令ハ十町歩ニ縮、十町歩ニ砂糖トアルトキハ、官費
ヲ以テ二十三四町歩ヲ耕作セシメ、而シテ二十町歩
ノ割合ヲ以テ上納シ、他ノ數町歩ノ收穫ヲ配分スル
ナリ、若シ中央政府ノ監督官ノ巡回スル際ハ、或ハ鄭
重ノ饗應接待ヲ以テ、左顧右盼監視ノ暇ナカラシメ、
或ハ賄賂ヲ以テ之ヲ瞞着セリ云々ト。

第十四

商業及ビ工業。

明平滅土、阿梨ノ時代

明平滅土、阿梨ハ埃及ノ農國ヲ一振シテ工商並立ノ邦國トナサントスルモ、人民遠大ノ計ナキガ故ニ、放任スルトキハ遂ニ盛大ニ至リ難キヲ見、專ラ保護ノ政策ヲ執レリ。乃チ多クノ商品ハ政府相當ノ價格ヲ以テ人民ヨリ買ヒ、而シテ更ニ之ヲ外國ニ轉賣スルコト、セリ。是ニ於テ珈琲賣買ノ如キハ、紅海ヨリ埃及近傍ハ一圓ニ埃及ノ掌握スル所トナリ、航海ノ如キモ希臘海、亞非利加海岸ニ及ブマデ皆埃及ノ支配ニ歸シ、其繁盛實ニ他國ノ企及スル能ハザル所ナリ

亞馬斯ノ時代

キ。而ルニ其後歐人ニ壓制セラレテ、漸ク衰へ。又亞馬斯ガ放任主義ヲ執ルニ至リテハ愈益衰廢シ、再ビ昔時ノ農國トハナレリ。

威斯明流ノ時代

綿花ノ騰貴

威斯明流ノ時ニ至リ、一時ニ工商業ヲ發達セシメント務メタリシガ。此時恰モ明平滅土、阿梨ガ獎勵シタル綿花ノ好結果ヲ生シタル時ニシテ、加フルニ米國南北戰爭ノ爲ニ其價非常ニ騰貴シタルヲ以テ、無前ノ盛況ヲ呈セリ。然レドモ幾モナクシテ米國平定シ、綿價亦舊ニ復シタルヨリ、一時ノ幻象ニ狂奔シテ外債ヲ以テ綿花ニ消費シタル數千万ノ金ハ、支出償ハズ、一時ノ恐慌ヲ來シ、破産セシモノ甚ダ多シ、又租

生絲

稅增加シタルガ爲ニ、綿花ノ產出益減ジ、商業モ亦大ニ衰弊セリ。

生絲モ亦一時甚ダ盛大ナリシガ、是亦外ハ伊佛ノ競爭ニ壓セラレ、又洲越運河ノ開通ヨリ東洋ノ生絲直ニ入り來リテ、之ト競爭スルコト能ハズ、内ハ賦稅ノ苛重ナルヨリ産業衰へ、今ハ殆ド生絲ノ名ノミヲ留ムルニ過ギサルニ至レリ。今埃及ノ生絲商業ノ形況ヲ知ラント欲セバ、英國ノ埃及輸出入表ヲ見バ、則チ明カナリ、是レ其大半ハ英國ト貿易シタルモノニシテ、英國以外ハ實ニ瑣少ニ過ギザレバナリ。則チ左ニ其略ヲ示サン、

生絲ノ衰頹

一千八百六十七年ヨリ七十一年マデハ毎歲二千五百萬弗ノ生絲ヲ出セリ、而ルニ一千八百七十二年ハ千三百五十萬弗ニ減シ、一千八百七十三年ハ四百八十五萬弗ニ減シ、一千八百七十五年ハ二十四萬弗ニ減シ、一千八百七十六年ニハ殆ト五萬弗ニ上テザルニ至レリ。

又歷山港ハ埃及商業ノ中心ナルヲ以テ、最モ繁榮ヲ極メタリシガ、洲越運河開鑿ノ後、東洋航通ノ漁船ハ皆濟度港ニ碇泊スルコトトナリ、今ヤ衰廢實ニ往時ノ觀ニアラズ、一千八百八十七年ノ報ニ據レバ、英ノ東洋漁船會社ハ歷山港ニ寄港スルヲ止メ、其他ノ諸國

モ漸々廢止スルニ至ルベシト云フ。

是レ蓋シ歐人ノ干渉及ビ運河開鑿ノ結果ニ外ナラザルナリ、見ルベシ吾人が屢唱道シタルガ如ク、洲越ノ運河ハ世界ヲ益シタルモ却テ埃及ヲ害シタルコトヲ。

輸出物品高

又英國ニ輸出スル物品ハ、一千八百六十年前後ニハ一億萬弗ニ達セリ、而シテ一千八百六十八年ニハ八千七百五十萬弗ニ減シ、一千八百七十四年ニハ五千二百五十萬弗ニ減シ、一千八百八十年ニハ四千五百萬弗ニ減シ、一千八百八十五年ニハ四千零四十萬弗ニ減却セリ。

輸出ノ超過

輸入額モ亦此ニ準ジテ増減スルコト固ヨリ免レザル所ナリ。然レドモ埃及國ハ外國ニ對シテ猶ホ財政上大ニ頼ムベキモノアリ、是レ他ナシ、天然ノ氣候ナリ。氣候ハ四時暑熱ナルヲ以テ、農産物甚ダ多ク、且衣服ノ如キモ單衣ノ外用フルヲ要セザルガ故ニ、他國ノ如ク裝飾品ヲ求ムルノ費用ナシ、又農民ハ最モ貧究ニシテ外國品ヲ購フノ資力ナキヲ以テ、一般ノ輸入物甚ダ少シ、是故ニ輸出ノ輸入ニ超過スルコト毎ニ三四倍ナリ、而シテ其剩餘ノ金貨ハ必ズ埃及ニ輸入セザルヲ得ザルガ故ニ、國債ニ苦ミ將ニ絶エントシタル國家ノ命脈ヲ數年ノ間維持スルヲ得タルナリ。

天然豊富ノ國

蓋シ此ノ如ク天然豊富ノ國土ナレバ、保護ノ策ヲ執リ、綿花ニ生絲ニ、其他商工百物ニ發達ノ道ヲ示導シ、能ク之ヲ獎勵シタランニハ、必ズ商工業ノ盛國トナリ、負債ノ爲ニ國命ヲ危ウスルガ如キニ至ラザリシヤ必セリ、惜イ哉政府ノ爲ス所此ニ及バズ、遂ニ今日ノ慘狀ヲ見ルヤ。

工業

埃及ノ上古ニ在リテ、工業ノ進歩シタルコトハ普ク世人ノ知ル所ニシテ、其美術ノ高尚ナル建築ノ閑雅ナル、決シテ他ニ其比類ヲ見ザル所ナリ。故ニ古人海樓府ヲ目シテ美術ノ中心ト稱シタルハ誣言ニアラザルナリ。今日英國ノ博物館ニ殘レル石刻獅子ノ如キ、

工業ノ衰頹

羅馬ニ在ル難江代表ノ石像ノ如キ、實ニ古今獨歩ノ名作ナリ、又高大ナルモノニ至リテハ、三角石塔及ビ俱麗驚葩土羅ノ針石塔等アリ、皆人口ニ膾炙セリ。而ルニ後年土國ニ制服セラレテヨリ、精巧ナル美術品ハ概子土京ニ持テ去ラレ、土太守ノ壓政ニテ土國風ヲ輸入セラレ、強ニ從フノ習風、遂ニ自國風ヲ棄テ、一ニ土國風トナリ、而シテ遂ニ一轉シテ歐洲風トナリ、此ニ至リテ埃及ノ美術建築其衰頹ヲ極メタリ。蓋シ在來ノ工業ハ風土人情ニヨリ、整然進歩シタルモノナリ、而ルニ俄然北方ノ、氣候ヲ異ニシ、風俗ヲ異ニシ、人情ヲ異ニスル美術建築ヲ移シ來ル、豈其配合ノ宜キヲ得可ケンヤ。

上古ノ製作物

數千年前ノ製作物ニシテ、更ニ毀損腐蝕スルナク、今日ニ現存スルコト埃及ノ如キハ稀ナリ。蓋シ埃及ハ雨ナク霧ナキヲ以テ、隨テ黴腐等ノ患ナシ、故ニ數千年前ノ麻布、織物、彫刻物等ヲ見ルニ、其精巧微妙ニ至リテハ、實ニ驚嘆スルノ外ナシ。殊ニ陶器ノ如キ最モ至便ヲ極ムルモノアリ、今日通常用フル水瓶ヲ見ルニ、構造奇巧學理ヨリ案出シタルモノ、如シ、即チ此水瓶ニ水ヲ容レ置クトキハ、此熱帶國ナルニ永ク清冷ヲ保ツコトヲ得ベシ、而シテ是レ實ニ數千年前ノ發明ニ係ルモノナリ。又玻璃ノ如キモ埃及國數千年

陶器

玻璃

前ノ發明ナリ、今日土中ヨリ採掘スルモノヲ見テ知
ルベシ。其他日用凡百ノ器具ニ至ルマテ、皆雅致アリ
テ且精功ナルコト、決シテ他國ノ上古ニ在ラザル所
ナリ。蓋シ其傳統ヲ原ヌルニ、歐洲今日ノ器具ハ羅馬
ヨリ出テ、羅馬ハ希臘ヨリ、希臘ハ此埃及ヨリ出テタ
ルハ學者ノ識認スル所ナリ。

樂器

埃及人ハ上古ヨリ音樂ヲ好ミタルガ故ニ、樂器ニモ
亦精功ナルモノ多シ。

工藝ノ破壞者

埃及古來工藝ノ發達ハ實ニ此ノ如シ、而シテ之ヲ破
壞シタルモノハ外國風ノ輸入ニ在リ、歐風ノ輸入中、
殊ニ威斯明流ノ如キハ最モ自國風ヲ破ルニ與リテ力

アルモノト謂フベシ。夫ノ俱麗鶯葩土羅ノ石塔ハ英

京倫敦ニ去リ、有名ナル石塔オベリスクハ北米紐育ノ公園ニ建

テリ。此他有名ナル美術品ノ埃及ヲ出テシモノハ、實

ニ威斯明流ガ外人崇拜ノ爲メニ與ヘシ結果ナリ。

今日志アル者ハ皆嘆シテ曰ク、埃及ノ弊政ハ猶ホ救

フベキノ時期アリ、而レドモ歐風ノ爲ニ其真ヲ失ヒ

タル埃及ノ美術工藝ハ、遂ニ回復スルノ時ナカルベ

シト。

今日ノ製作物

此ノ如クナルヲ以テ、埃及人が今日製作スル物品ハ、

古代ニ及バザルコト素ヨリ論ヲ俟タズ、又歐洲文明

國ノ精巧ニモ及バザルコト遠シ、然レドモ仔細ニ觀

察スルトキハ、隱約ノ間猶ホ埃及風ノ雅味掬スベキ
モノ存スルアルヲ見ルナリ。
嗚呼廢殘ノ餘、猶ホ此ノ如シ、其盛時ニ成ル所想像ス
ベキナリ、唯恨ムラクハ、此一點殘留セル雅味モ、亦
往クマ々消滅シ去リテ、全ク無韻無致ノ全体トナラ
シユトヲ。

第十五

宗教。

宗教

埃及人が古來矇昧ノ世ニ信仰シタル神ハ、果シテ何
物ナリシヤ知ルニ由ナシト雖モ、綿飛須建立後ハ、光
明ヲ崇信セシヤ疑フ可カラズ。蓋シ埃及人モ他ノ上
古ノ民ノ如ク、生ヲ授クルモノヲ最上ノ善神ト崇拜
シ、死ヲ與フルモノハ惡魔ナリト恐怖セリ。而シテ夫
ノ生ヲ萬物ニ授クルモノハ光ト熱トヨリ大ナルハナ
ク、光ト熱トノ發暉ヲ與フルモノハ太陽ヨリ勝ルハ
ナシト思惟シ、其思想ヨリ太陽ヲ崇敬尊信スルニ至
リシモノ、如シ。故ニ古代ノ彫刻畫圖ニハ、或ハ日輪

太陽崇拜

ノ兩頭ノ驚トナリテ飛ブアリ、或ハ日輪ガ兩角ヲ生
 シタルモノアリ、皆當時ノ智者ガ太陽ヲ以テ神通力
 ノモノト尊拜セシヲ察スルニ足ル。
 人類ノ發生ハ熱帶地方ヨリ始マリシハ是レ亦爭フ可
 カラザルモノ、如シ、彼ノ地獄ハ熱火ヲ恐怖スルノ
 想像ヨリ起リタルモノニシテ、火ノ奇責蛇蝎ノ猛烈
 アレドモ、未ダ寒帶ニ於ケル凍烈酷寒ノ慘狀ヲ寫ス
 モノナシ、又極樂ノ如キモ、同シク熱帶地方ヨリ案出
 想像セシモノニアラザルハナシ、是故ニ宗教ノ發達
 モ埃及ハ實ニ他ノ諸國ニ先チタルハ素ヨリ瞭然タル
 所ナリ。

瀕江ヲ尊敬ス

又上古ノ埃及人ハ、人死スルノ後魂魄ハ他界ニ趣キ、
 他界ニ於テ公平ナル裁判ヲ受クルモノニシテ、現世
 ノ善惡ハ未來ノ權衡ニ較セラレ、毫厘モ爭フ可カラ
 ザルモノナリト爲セリ、且埃及一國ノ生命ハ一ニ瀕
 江ニ由ルヲ以テ、最モ瀕江ヲ尊敬シ、種々ノ偶像ノ如
 キモ、多クハ瀕江ヲ代表セリ。

回々教

後年天主教ノ入ルニ及ンデ、一タビハ大ニ靡キタリ
 シガ、回々教ノ起リシヨリ、人心一ニ之ニ傾キ、遂ニ
 國教トナルニ至レリ、軌近ハ又西教ノ勢力増進スル
 ノ觀アリ。

僧侶ノ品位

埃及ノ僧侶ハ社會上大ニ尊敬ト勢力トヲ有セリ、而

シテ中古歐洲各國ノ僧權盛ナリシ時ノ如ク、埃及全國ノ土地ノ四分一ハ殆ド寺院僧侶ニ屬セリ。僧侶ノ務ハ教法ヲ弘メ、教育ヲ掌リ、寺院ノ維持、禮式、葬祭等ニ在リ、其禮儀、葬祭ハ最モ嚴格ニシテ、進退舉動瑣細ノ事ニ至ルマデ、悉ク鄭重ナル法アリ、僧侶ノ位階及ビ職務ハ數級ニ分レ、其中、教育部天文部アリ、紀元前二世紀、有名ナル天文家比巴ヒバ流賀須ヒバカスヲ歷山港ニ出シ、又埃及ノ靈地ナリシ帝邊須府タイベスハ曾テ宇内學術技藝ノ淵藪ト稱セラレタリシガ、其遺風猶ホ今日ニ存シ、僧侶中往々天文其ノ他ノ學藝ニ該博深遠ナルモノアリ。

天文家比巴 賀須

僧侶ノ行狀

僧侶ノ行狀ハ實ニ規律正シク、身体ハ清淨ヲ主トシ、衣服飲食日常ノ行爲、皆嚴格ナル法度ヲ守ルコト、實ニ驚クニ堪ヘタリ。身体ハ一日二度一夜二度ツ、沐浴シ、三日毎ニ髮ヲ剃ルノ習ナリ。就中髻ト肩ハ必ズ之ヲ剃ルヲ法トス、衣服ハ麻ヲ主トシ、毛布ハ嫌惡スル所ナリ。且ツ獸皮獸毛ニ觸ル、ヲ忌ミ、神ニ供スル牛羊ノ如キ、初メニ從者ヲシテ之ヲ清淨セシムルヲ例トス、妻帯ハ禁ズル所ニ非ズ、然レドモ僧侶ノ一夫衆婦ヲ娶ルモノナシ、其言ニ曰ク俗人ハ情慾ニ制セラル、モ、僧侶ハ清淨ナラザル可カラズト。埃及人が死屍ヲ尊敬保護スル感情ハ、世界第一トモ

屍保存

木乃ノ術

稱スベシ。是レ祖先ノ遺靈ヲ崇拜スルノ習慣ヨリ起
 リシモノナルベシ。死屍ヲ保存スルヲ務ムルコトノ
 切ナルヨリ、其保存法モ亦最モ進歩シテ世界ニ冠タ
 ルニ至レリ。蓋シ古来死屍保存(本)ノ術ハ、醫術ヨリ
 モ盛ニ流行セルモノナリト云フ。埃及人ノ死スルヤ、
 親戚朋友相會シテ死屍保存ヲ議スルコト、恰モ我が
 葬儀ヲ議スルガ如シ、位階貧富ニ依テ大ニ其ノ觀ヲ
 異ニスルト雖モ、一般議定スルヤ、先ツ死屍ヲ保存執
 行者ニ渡ス、其方法ハ第一ニ鼻ヨリ腦ヲ抜キ取り、然
 ル後銳キ石劍ニテ左腹ヲ割キ、腹中ノ汚物ヲ去リ、梘
 椰酒ヲ以テ其中ヲ洗ヒ、珍香ヲ以テ之ヲ満タシ、能ク
 瘡口ヲ縫ヒ、塩ト曾達ニ全身ヲ漬スコト七十日、其後
 之ヲ洗滌シ、麻布ヲ以テ之ヲ巻キ、護謨ニテ其上ヲ塗
 ルガ如クシ、貧富ニ隨テ其上ニ金銀五色ノ彩色ヲナ
 ス、其費、中等ニテ二三百弗余ナリト云フ、其後生活セ
 ル人ノ如ク、床ノ正面ニ立テ、親戚朋友悲哀シテ祭リ、
 而シテ後告別シテ之ヲ墓地ニ葬送ス、且ツ其喪祭ハ
 人民ノ最モ重ズル所ナリ。

教法ノ衰頹

近時歐風ニ心酔シテヨリ、人情輕佻浮薄ニ陥リ、從テ
 西教ノ傳播ヲ來シ、都會ノ少年子弟ノ如キハ、月二日
 ニ國教信仰ノ心ヲ失ヒ、國教ヲ奉セズ、外教モ亦信ゼ
 ずルモノ多キニ至リ、家中寺院ニ於テ、父兄先輩ノ前

ニハ暫ク國教ヲ無セザルモ、家外ニテハ之ヲ破リ、甚
 ダシキハ歐人ニ媚ビ、故ラニ國教ヲ罵詈スルモノア
 リ、故ニ國教漸ク衰滅ノ運ニ傾キ、人心定ラズ、國勢
 敗頽スルニ至レリ。蓋シ一國民或ハ一種族ガ其獨立
 ヲ維持シ来リシモノハ、其歴史國教風俗ヲ信愛シ、他
 ノ全ク已レト異ナル歴史國教風俗ヲ排セシ精神與リ
 テ甚ダカアルモノナリ、然ルニ已レ自カラ其本國ノ
 歴史ヲ荒唐不稽ナリトシ、其國教ヲ崇信セズ、其風俗
 ヲ蔑視輕侮スルノ心情起ルトキハ、外物ノ爲メニ精
 神ヲ弱メ、遂ニ其物体ノ奴隸ニ陥リ、心醉ノ極、彼我
 善惡得失ヲ比較スルノ精神ヲ鈍ナラシムルニ至ルハ、
 固ヨリ免ル能ハザル所ナリ。埃及人ノ青年輩ハ、此ノ
 傾向甚ダシトス。

風俗

第十六

風俗。

埃及人ノ風俗ハ甚ダ歐洲人ト異ナルモノ多シ、然レ
 トモアル東洋諸國ノ如ク、裸体ヲ顯ハスコトヲ慎ミ、
 彼ノ炎熱ノ氣候ナルモ、能ク衣服ヲ着シ、帽ヲ戴ケリ。
 而シテ宗教位階ノ然ラシムル所ヨリ衣帽ハ甚々數多
 ナリ、上中ノ人ハ平生木綿及ビ絹布ヲ着シ、袖ハ甚々
 廣濶ナリ、其男子ハ頭髮ヲ剃リ、唯僅ニ頂上ヲ殘シ、
 婦人ハ長キ薄布ヲ以テ面ヲ覆フ、下等婦人ハ黒粉ヲ
 以テ目ノ周圍ヲ塗り、其顔ヲ飾ルノ風アリ、蓋シ目ノ
 周圍ヲ塗ルハ、實ハ炎熱ノ下ニ在ルガ故ニ、目ヲ保護